

にをちてむなしく悪業を感得せん。をしからさらめや。悪をつくりなから悪にあらずとおもひ。悪の報あるへからずと邪思惟するによりて。悪の報を感得せざるにはあらず。

皓月供奉問長沙岑和尚。古徳云。了即業障本來空。未了應須償宿債。只如師子尊者。二祖大師爲什麼得償債去。長沙云。大徳不識本來空。彼云。如何是本來空。長沙云。業障是。又問。如何是業障。長沙云。本來空是。彼無語。長沙便示一偈云。假有元非有。假滅亦非無。涅槃償債義。一性更無殊。

長沙の答は答にあらず。鳩摩羅多の闍夜多にしめす道理なし。しるへし業障のむねをしらざるなり。佛祖の兒孫修證辨道するには。まづかならずこの三時の業をあきらめしらんこと。鳩摩羅多尊者のことくなるへし。すてにこれ祖宗の業なり。廢忘すへからず。このほか不定業あり。また八種の業あること。ひろく參學すへし。いまたこの業報の道理あきらめさらんともからみたり。人天の導師と稱することなかれ。かの三時の悪業報かならず感すへしといへと

も。懺悔するかときは。重を轉して輕受せしむ。また滅罪清淨ならしむるなり。善業また隨喜すれば。いよいよ增長するなり。これみな作業の黑白にまかせたり。

世尊言假令經百劫所作業不亡。因緣會遇時。果報還自受。汝等當知。若純黑業得純黑異熟。若純白業得純白異熟。若黑白業得雜異熟。是故應離純黑及黑白雜業。當勤修學純白之業。時諸大衆聞佛說已。歡喜信受。

正法眼藏三時業

建長五年癸丑三月九日在於永平寺首座寮書寫之畢

懷奘

正法眼藏四馬

世尊。一日外道來詣佛所。問佛。不問有言。不問無言。世尊據座良久。外道禮拜讚歎云。善哉世尊。大慈大悲。開我迷雲。令我得入。乃作禮而去。外道去已。阿難尋白佛言。外道以何所得而言得入。稱讚而去。世尊言。如世間良馬見鞭影而行。祖師西來よりのちいまにいたるまで。諸善知識おほくこの因縁を擧げて。參學のともからにしめすに。あるひは年載をかさね。あるひは日月をかさねて。ままたに開明し佛法に信入するものあり。これを外道問佛の話と稱す。しるへし世尊に聖默聖説の二種の施説まします。これによりて得入するもの。みな如世間良馬見鞭影而行なり。聖默聖説にあらざる施説によりて得入するも。またかくのことし。龍樹祖師曰。為人説句。如快馬見鞭影即入正路。あらゆる機縁あるひは生不生の法をきき。三乘一乘の法をきく。しはしは邪路におもむかんとすれとも。鞭影しきりにみゆるかこときはすなはち正路にいるなり。もし師にしたかひ人にあひぬるか

こときは。ところとして説句にあらざることなし。ときとして鞭影をみすといふことなきなり。即坐に鞭影をみるもの。三阿僧祇をへて鞭影をみるもの。無量劫をへて鞭影をみ。正路にいることをうるなり。

雜阿含經曰。佛告比丘。有四種馬。一者見鞭影即便驚悚隨御者意。二者觸毛便驚悚隨御者意。三者觸肉然後乃驚。四者徹骨然後方覺。初馬如聞陀聚落無常。即能生厭。次馬如聞己聚落無常。即能生厭。三馬如聞己親無常。即能生厭。四馬猶如己身病苦方能生厭。これ阿含の四馬なり。佛法を參學するとき。かならず學するところなり。眞善知識として人中天上に出現し。ほとけのつかひとして祖師なるは。かならずこれを參學しきたりて。學者のために傳授するなり。しらするは。人天の善知識にあらず。學者もし厚殖善根の衆生にして。佛道ちかきものは。からずこれをきくことをうるなり。佛道とほきものは。きかすしらす。しかあれば。すなはち師匠いそきと。かんことをおもふへ

し。弟子いそききかんとこひねこふへし。いま生厭といふは佛以一音演說法。衆生隨類各得解。或有恐怖。或歡喜。或生厭離。或斷疑なり。大經云。佛言。復次善男子。如調馬者。凡有四種。一者觸毛。二者觸皮。三者觸肉。四者觸骨。隨其所觸。稱御者意。如來亦爾。以四種法調伏衆生。一者爲說生。便受佛語。如觸其毛。隨御者意。二者說生老。便受佛語。如觸毛皮。隨御者意。三者說生及以老病死。便受佛語。如觸毛皮肉骨。隨御者意。善男子。御者調馬。無有決定。如來世尊。調伏衆生。必定不虛。是故號佛調御丈夫。これを涅槃經の四馬となつ。學者ならはさるなし。諸佛ときたまはさるをしまさす。ほとけにしたかひたてまつりてこれをきき。ほとけをみたてまつり供養したてまつることは。かならず聽聞し。佛法を傳授することには。衆生のためにこれをとくこと。歷劫におこたらず。つひに佛果にいたりて。はしめ初發心のときのこと。菩薩聲聞人天大會のためにこれをとく。このゆゑに佛法僧寶種不斷なり。か

とき清
本き
に作る

くのことくなるかゆゑに諸佛の所説と菩薩の所説とはるかにことなり。しるへし調馬師の法におほよそ四種あり。いはゆる觸毛觸皮觸肉觸骨なり。これなものにものを觸毛せしむるとみえされとも。傳法の大士おもはくは。鞭なるへしと解す。しかあれともかならずしも調馬の法に鞭をもちゐるもあり。鞭をもちゐるもあり。調馬かならず鞭のみにはかきるへからず。たてるたけ八尺なる。これを龍馬とす。このうまととのふるること。人間にすくなし。また千里馬といふうまあり。一日のうち千里をゆく。このうま五百里をゆく。あひた血汗をなかず。五百里すきぬれば。清涼にしてはやし。このうまにのる人すくなし。とのふる法しれるものすくなし。このうま神丹國にはなし。外國にあり。このうまおのおのしきりに鞭を加すとみえず。しかあれとも古徳いはく。調馬かならず鞭を加す。鞭にあらされはうまととのふらす。これ調馬の法なり。いま觸毛皮肉骨の四法あり。毛をのそきて皮骨觸することあるへからず。毛皮をのそきて

清本觸
この下
無とあ
る清し
か無し
るあに
るあに
作本

肉骨に觸することあるへからず。かるかゆゑにしりぬこれ鞭を加すへきなり。いまここにとかさるは文の不足なり。諸經かくのこときのところおほし。如來世尊調御丈夫またしかなり。四種の法をもて一切衆生を調伏して必定不慮なり。いはゆる生を爲説するにすなはち佛語をうくるあり。生老を爲説するに佛語をうくるあり。生老病を爲説するに佛語をうくるなり。生老病死を爲説するに佛語をうくるあり。のちの三をきくもの。いまたはしめの一をはなれず。世間の調馬の觸毛をはなれて。觸皮肉骨あらさるかことし。生老病死を爲説すといふは如來世尊の生老病死を爲説します。衆生をして生老病死をはなれしめんかためにあらず。生老病死すなはち道ととかす。生老病死すなはち道なりと解せしめんかためにくにあらず。この生老病死を爲説するによりて一切衆生をして阿耨多羅三藐三菩提の法をえせしめんかためなり。これ如來世尊調伏衆生。必定不慮。是故號佛調御丈夫なり。

正法眼藏四馬

建長七年乙卯夏安居日以御草案書寫之畢

懷獎

正法眼藏發菩提心

おほよそ心三種あり。一者質多心。此方稱慮知心。二者汗栗多心。此方稱艸木心。三者矣栗多心。此方稱積聚精要心。このなかに菩提心をおこすこと。かならず慮知心をもちゐる。菩提は天竺の音。ここには道といふ。質多は天竺の音。ここには慮知心といふ。この慮知心にあらされは。菩提心をおこすことあたはず。この慮知心をすなはち菩提心とするにはあらず。この慮知心をもて菩提心をおこすなり。菩提心をおこすといふは。おのれいまたわたらさるさきに一切衆生をわたさんと發願しいとなむなり。そのかたちいやしといふとも。この心をおこせは。すてに一切衆生の導師なり。この心もとよりあるにあらず。いまあらたに歎起するにあらず。一にあらず。多にあらず。自然にあらず。凝然にあらず。わか身のなかにあるにあらず。わか身は心のなかにあるにあらず。この心は法界に周遍せるにあらず。前にあらず。後にあらず。あるにあらず。なきにあらず。自性にあらず。佗

清本心
字無し

清本
るにあ
らるに
六字無
し

清本
字無し

性にあらず。其性にあらず。無因性にあらず。しかあれとも感應道交するところに。發菩提心するなり。諸佛菩薩の所授にあらず。みつからか所能にあらず。感應道交するに。發心するゆゑに自然にあらず。この發菩提心。おほくは南閻浮の人身に發心すへきなり。八難處等にも。すこしきはありおほからず。菩提心をおこしてのち。三阿僧祇劫。一百大劫修行す。あるひは無量劫おこなひてほとけになる。あるひは無量劫おこなひて衆生をさきにわたして。みつからはついにほとけにならず。たたし衆生をわたし。衆生を利益するもあり。菩薩の意樂にしたかふ。おほよそ菩提心は。いかかして一切衆生をして菩提心をおこさしめ。佛道に引導せましと。ひまなく三業にいとなむなり。いたつらに世間の欲樂をあたふるを。利益衆生とするにはあらず。この發心。この修證。はるかに迷悟の邊表を超越せり。三界に勝出し。一切に拔群せり。なほ聲聞辟支佛のおよふところにあらず。迦葉菩薩偈をもて釋迦牟尼佛をほめたてまつるに。いはく。發心畢

竟二無別。如是二心先心難。自未得度先度他。是故我禮初發心。初發已爲天人師。勝出聲聞及緣覺。如是發心過三界。是故得名最無上。發心とははしめて自未得度先度他の心をおこすなり。これを初發菩提心といふ。この心をおこすよりのちさらにそこはくの諸佛にあひたてまつり供養したてまつるに。見佛聞法し。さらに菩提心をおこす。雪上加霜なり。いはゆる畢竟とは。佛果菩提なり。阿耨多羅三藐三菩提と初發菩提心と格量せば。劫火螢火のことくなるへしといへとも。自未得度先度他のころをおこせば。二無別なり。每自作是念。以何令衆生得入無上道。速成就佛身。これすなはち如來の壽量なり。ほとけは發心修行證果。みなかくのことにし。衆生を利益すといふは。衆生をして自未得度先度他のころをおこさしむるなり。自未得度先度他の心をおこせるちからによりて。われほとけにならんとおもふへからず。たとひほとけになるへき功德熟して。圓滿すへしといふとも。なほめぐらして衆生の成佛得道に回向するなり。この

心われにあらず他にあらずきたるにあらずといへとも。この發心よりのち大地を擧すれば。みな黄金となり。大海をかけは。たちまちに甘露となる。これよりのち。土石砂礫をとるすなはち菩提心を拈來するなり。水沫泡焰を參する。したしく菩提心を擔來するなり。しかあれはすなはち國城妻子七寶男女頭目髓腦身肉手足をほとこす。みな菩提心の閑恬恬なり。菩提心の活潑潑なり。いまの質多慮知の心。ちかきにあらずとほきにあらず。みつからにあらず。他にあらずといへとも。この心をもて自未得度先度他の道理にめぐらすこと。不退轉なれば發菩提心なり。しかあれは。いま一切衆生の我有と執せる。艸木瓦礫金銀珍寶をもて菩提心にほとこす。また發菩提心ならさらめや。心およひ諸法。ともに自他共無因にあらさるかゆ系にもし。一刹那この菩提心をおこすより。萬法みな増上縁となる。おほよそ發心得道。みな刹那生滅するによるものなり。もし刹那生滅せず。は前刹那の惡さるへからず。前刹那の惡い。またさらされは後

刹那の善いま現生すへからず。この刹那の量は。たた如來ひとりあ
きらかにしらせたまふ。一刹那心能起一語。一刹那語能說一字も。ひ
とり如來のみなり。餘聖不能なり。おほよそ壯士の一彈指のあひた
に。六十五の刹那ありて。五蘊生滅すれとも。凡夫かつて不覺不知な
り。恒刹那の量よりは。凡夫もこれをしれり。一日一夜をふるあひた
に。六十四億九萬九千九百八十の刹那ありて。五蘊ともに生滅すし
かあれとも。凡夫かつて覺知せず。覺知せざるかゆゑに。菩提心をお
こさず。佛法をしらず。佛法を信せざるものは。刹那生滅の道理を信
せざるなり。もし如來の正法眼藏涅槃妙心をあきらむるか。ことき
は。かならずこの刹那生滅の道理を信するなり。いまわれら如來の
説教にあふたてまつりて。曉了するに。たれとも。わづかに恒刹那
よりこれをしり。その道理しかあるへしと信受するのみなり。世尊
所説の一切の法。あきらめずしらせるとも。刹那量をしらせるとも。か
ことし。學者みたりに貢高することなかれ。極小をしらせるとも。に

清本言
字無し

あらず。極大をもまたしらせるとも。もし如來の道力によるるときは。
衆生また三千界をみる。おほよそ本有より中有にいたり。中有より
當本有にいたる。みな一刹那一刹那にうつりゆくなり。かくのこと
くしてわかこころにあらず。業にひかれて。流轉生死すること。一刹
那もととまらざるなり。かくのことく流轉生死する。身心をもて。た
ちまちに自未得度先度佗の菩提心をおこすへきなり。たとひ發菩
提心のみちに身心をしむとも。生老病死して。つひに我有なるへ
からず。衆生の壽行。生滅してととまらずすみやかなること。
世尊在世有一比丘。來詣佛所。頂禮雙足。却住一面。白世尊言。衆生壽行
云何速疾生滅。佛言。我能宣説。汝不能知。比丘言。頗有譬喩能顯示不。佛
言。有。今爲汝説。譬如四善射夫。各執弓箭。相背攢立。欲射四方。有一捷夫。
來語之曰。汝等今可一時放箭。我能遍接。俱令不墮。於意云何。此捷疾不。
比丘白佛言。甚疾。世尊。佛言。彼人捷疾不及地行。夜叉。地行。夜叉捷疾不。
及空行。夜叉。空行。夜叉捷疾不及四天王。天捷疾。彼天捷疾不及日月二

輪捷疾。日月二輪捷疾。不及堅行天子捷疾。此是導引日月輪車者。此等諸天。展轉捷疾。壽行生滅。捷疾於彼。刹那流轉。無有暫停。われらか壽行生滅。刹那流轉捷疾なることかくのことし。念念のあひた。行者この道理をわするることなかれ。この刹那生滅流轉捷疾にありなから。もし自未得度先度佗の一念をおこすかときは。久遠の壽量たちまちに現在前するなり。三世十方の諸佛ならひに七佛世尊。および西天二十八祖。東地六祖。乃至傳佛正法眼藏涅槃妙心の祖師。みなともに菩提心を保任せり。いまた菩提心をおこさざるは祖師にあらず。

禪苑清規一百二十問云。發悟菩提心否。あきらかにしるへし佛祖の學道。かならず菩提心を發悟するをさきとせりといふこと。これすなはち佛祖の常法なり。發悟すといふは曉了なり。これ大覺にはあらず。たとひ十地を頓證せるも。なほこれ菩薩なり。西天二十八祖。唐土六祖等。および諸大祖師は。これ菩薩なり。ほとけにあらず。聲聞

辟支佛等にあらず。いまのよにある參學のともから菩薩なり。聲聞にあらずといふことあきらめしれるともから。一人もなし。たたみたりに納僧衲子と自稱して。その眞實をしらざるによりて。みたりかはしくせり。あはれむへし。澆季祖道廢せることを。しかあれはすなはちたとひ在家にもあれ。たとひ出家にもあれ。あるひは天上にもあれ。あるひは人間にもあれ。苦にありといふとも。樂にありといふとも。はやく自未得度先度佗の心をおこすへし。衆生界は有邊無邊にあらされとも。先度一切衆生の心をおこすなり。これすなはち菩提心なり。一生補處菩薩。まさに閻浮提にくたらんとするとき。觀史多天の諸天のために。最後の教をほとこすにいはく。菩提心是法明門。不斷三審故。あきらかにしりぬ三審の不斷は。菩提心のちからなりといふことを。菩提心をおこしてのち。かたく守護し退轉なからへし。

佛言。云何菩薩守護一事。謂菩提心。菩薩摩訶薩。常勤守護是菩提心。猶

如世人守護一子。亦如瞎者護餘一目。如行曠野守護導者。菩薩守護菩提心。亦復如是。因護如是菩提心。故得阿耨多羅三藐三菩提。因得阿耨多羅三藐三菩提。故常樂我淨具足而有。即是無上大般涅槃。是故菩薩守護一法。菩提心をまもらんこと。佛語あきらかにかくのことし。守護して退轉なからしむるゆゑは。世間の常法にいはく。たとひ生すれとも熱せざるもの三種あり。いはく。魚子。菴羅果。發心菩薩なり。おほよそ退失するものおほきかゆゑに。われも退失とならんことをかねてよりおそるるなり。このゆゑに菩提心を守護するなり。菩提の初心のとき。菩提心を退轉すること。おほくは正師にあはさるによる。正師にあはされは。正法をきかす。正法をきかされは。おそらくは因果を撥無し。解脱を撥無し。三寶を撥無し。三世等の諸法を撥無す。いたつらに現在の五欲に貪著して。前途菩提の功德を失す。あるひは天魔波旬等。行者をさまたげんかために。佛形に化し。父母師匠乃至親族諸天等のかたちを現してきたりちかつきて。菩薩にむ

かひてこしらへすすめていはく。佛道長遠久受諸苦。もともうれふへし。しかしまつわれ生死を解脱し。のちに衆生をわたさんには。行者このかたらひをききて。菩提心を退し。菩薩の行を退す。まさにしてへしかくのことくの説は。すなはちこれ魔説なり。菩薩しりてしたかふことなかれ。もはら自未得度先度佗の行願を退轉せさるへし。自未得度先度佗の行願にそむかんかときは。これ魔説としるへし。外道説としるへし。惡友説としるへし。さらにしたかふことなかれ。

魔有四種。一煩惱魔。二五衆魔。三死魔。四天子魔。煩惱魔者。所謂百八煩惱等。分別八萬四千諸煩惱。五衆魔者。是煩惱和合因緣。得是身四大及四大造色。眼根等色。是名色衆。百八煩惱等諸受和合。名爲受衆。大小無量所有想。分別和合。名爲想衆。因好醜心發。能起貪欲嗔恚等心。相應不相應法。名爲行衆。六情六塵和合故。生六識。是六識分別和合。無量無邊心。是名識衆。死魔者。無常因緣故。破相續。五衆壽命。盡離三法。識熱壽故。

論本下有問世
字有下問世
唯清有本
雖清有本

名爲死魔。天子魔者。欲界主。淡著世樂。用有所得。故生邪見。憎嫉一切賢聖。涅槃道法。是名天子魔。魔是天竺語。秦言能奪命者。唯死魔實能奪命。餘者亦能作奪命因緣。亦奪智慧命。是故名殺者。問曰。一五衆魔攝三種魔。何以故別說四。答曰。實是一魔。分別其義。故有四。上來これ龍樹祖師の施設なり。行者しりて。勤學すへし。いたつらに魔嬈をかうふりて。菩提心を退轉せされ。これ守護菩提心なり。

正法眼藏發菩提心

爾時寬元二年甲辰二月十四日。在越州吉田縣吉峰精舍。示衆。建長七年乙卯四月九日。以御艸案書寫了。

懷矣

清時以下
字無十
御艸案
懷矣
九字無

正法眼藏出家功德

龍樹菩薩言。問曰。若居家戒得生天上。得菩薩道亦得涅槃。復何用出家戒。答曰。雖俱得度。然有難易。居家生業種種事務。若欲專心道法。家業則廢。若專修家業。道事則廢。不取捨能應行法。是名爲難。若出家離俗。絕諸忿亂。一向專心行道爲易。復次居家慣鬧。多事多務。結使之根。衆罪之府。是爲甚難。若出家者。譬若有人出在空野無人之處。而一其心。無心。無慮。內想既除。外事亦去。如偈說。閑坐林樹間。寂然滅衆惡。恬澹得一心。斯樂非天樂。人求富貴利。名衣好牀褥。斯樂非安穩。求利無厭足。衲衣行乞食。動止心常一。自以智慧眼。觀知諸法實。種種法門中。皆以等觀入。解慧心寂然。三界無能及。以是故。知出家修戒行道爲甚易。復次出家修戒。得無量善律儀。一切具足圓滿。以是故。白衣等應當出家受具足戒。復次佛法中出家法。第一難修。如閻浮呬提梵志問舍利弗。於佛法中何者最難。舍利弗答曰。出家爲難。又問。出家有何等難。答曰。出家內樂爲難。既得內樂。復次何者爲難。修諸善法難。以是故。應出家。復次若人出家時。魔王驚

論本下有問世
字有下問世
唯清有本
雖清有本

論本下有問世
字有下問世
唯清有本
雖清有本

論本
上有
字に
有る
り罪畢

愁言此人諸結使欲薄必得涅槃墮僧寶數中復次佛法中出家人雖破戒墮罪畢得解脫如優鉢羅華比丘尼本性經中說佛在世時此比丘尼得六神通阿羅漢入貴人舍常讚出家法語諸貴人婦女言姊妹可出家諸貴婦女言我等少壯容色盛美持戒為難或當破戒比丘尼言破戒便破但出家問言破戒當墮地獄云何可破答言墮地獄便墮諸貴婦女笑之言地獄受罪云何可墮比丘尼言我自憶念本宿命時作戲女著種種衣服而說舊語或時著比丘尼衣以為戲笑以是因緣故迦葉佛時作比丘尼自恃貴姓端正心生憍慢而破禁戒破戒罪故墮地獄受種種罪受畢竟值釋迦牟尼佛出家得六神通阿羅漢道以是故知出家受戒雖復破戒以戒因緣故得阿羅漢道若但作惡無戒因緣不得道也我乃昔時世世墮地獄從地獄出為惡人惡人死還入地獄都無所得今以此證知出家受戒雖復破戒以是因緣可得道果復次如佛在祇桓有一醉婆羅門來到佛所求作比丘佛敕阿難與剃頭著法衣醉酒既醒驚怪已身忽為比丘即便走去諸比丘問佛何以聽此婆羅門而作比丘佛言此婆

論本
上有
字に
有る
り功

羅門無量劫中初無出家心今因醉故暫發微心以此因緣故後出家得道如是種種因緣出家之功德無量以是白衣雖有五戒不如出家世尊遂至醉婆羅門到出家受戒聽許得道最初的下種とせしめましますあきらかにしりぬむかしよりいまに出家の功德なからん衆生なく佛果菩提をうへからすこの婆羅門わつかに醉酒のゆゑにしばらく微心をおこして剃頭受戒し比丘となれり酒酔さめさるあひたいくはくにあらされともこの功德を保護して得道の善根を増長すへきむねこれ世尊誠諦の金言なり如來出世の本懐なり一切衆生あきらかに已今當のなかに信受奉行したてまつるへしまことその發心得道さためて刹那よりするものなりこの婆羅門しばらくの出家の功德なほかくのことしいかにいはんやいま人間一生の壽者命者をめくらして出家受戒せん功德さらば醉婆羅門よりも劣ならめやは轉輪聖王は八萬歲已上るときにいてて四洲を統領せり七寶具足せりそのときこの四洲みな淨土

清本
下り
字無
して

のことし。輪王の快樂。ことはのつくすへきにあらず。あるひは三千
界統領するもありといふ。金銀銅鐵輪の別ありて。一三三四洲の統
領あり。かならず身に十惡なし。この轉輪聖王。かくのときの快樂
にゆたかなれとも。かうへにひとすちの白髪おひぬれは。くらゐを
太子にゆつりて。わかみすみやかに出家し袈裟を著して。山林にい
りて。修練し。命終すれば。かならず梵天にうまる。このみつからかか
うへの白髪を銀函にいれて。王宮にをさめたり。のちの輪王に相傳
す。のちの輪王また白髪おひぬれは。先王に一如なり。轉輪聖王の出
家ののち。餘命のひさしきこと。いまの人にとくらふへからず。すて
に輪王八萬上といふ。その身に三十二相を具せり。いまの人およぶ
へからず。しかあれとも。白髪をみて。無常をさと。白業を修して。功
徳を成就せんか。ため。かならず出家修道するなり。いまの諸王。轉
輪聖王におよぶへからず。いたつらに光陰を貪欲のなかにすごし
て。出家せざるは。來世くやしからん。いはんや小國邊地は。王者の名

こら
ら
る
こ
に
本
作
る

あれとも。王者の徳なし。貪してととまるへからず。出家修道せば。諸
天よるこひまもるへし。龍神うやまひ保護すへし。諸佛の佛眼。あき
らかに證明し。隨喜しまし。さん。戲女のむかしは。信心にあらず。戲
笑のため。比丘尼の衣を著せり。おそらくは。輕法の罪あるへし。と
いへとも。この衣をその身に著せし。ちから。二世に佛法にあふ。比丘
尼衣とは。袈裟なり。戲笑著袈裟のちからによりて。第二世迦葉佛の
ときにあふ。たてまつり。出家受戒し。比丘尼となれり。破戒によりて
墮獄受罪すといへとも。功德くちすして。つひに釋迦牟尼佛にあひ
たてまつり。見佛聞法。發心修習して。なかく三界をはなれて。大阿羅
漢となれり。六通三明を具足せり。かならず無上道なるへし。しかあ
れは。すなは。ち。は。し。め。より。一向無上菩提のため。清淨の信心をこ
らして。袈裟を信受せん。その功德の増長。かの戲女の功德よりも。す
みやかならん。いはんや。また無上菩提のため。菩提心をおこし。出
家受戒せん。その功德無量なるへし。人身にあらされは。この功德を

成就することまれなり。西天東土出家在家の菩薩祖師おほしといふとも。龍樹祖師におよはず。醉婆羅門戲女等の因縁もはら龍樹祖師これを擧して衆生の出家受戒をすすむ。龍樹祖師すなはち世尊金口の所記なり。

世尊言南洲有四种最勝一見佛二聞法三出家四得道。あきらかにしるへし。この四種最勝すなはち北洲にもすくれ。諸天にもすくれ。たり。いまわれら宿善根力にひかれて最勝の身をえたり。歡喜隨喜して出家受戒すへきものなり。最勝の善身をいたつらにして。壽命を無常のかせにまかすることなかれ。出家の生生をかさねは。積功累徳ならん。

世尊言於佛法中出家果報不可思議。假使有人起七塞塔高至三十三天。所得功德不如出家。何以故。七塞塔者。貪惡愚人能破壞故。出家功德無有壞毀。是故若教男女若放奴婢。若聽人民。若自己身。出家入道者。功德無量。世尊あきらかに功德の量をしろしめして。かくのことく

校量しまします。福増これをききて。一百二十歳の耄及なれとも。しひて出家受戒し。少年の席末につらなりて修練し。大阿羅漢となれり。しるへし。今生の人身は。四大五蘊因縁和合して。かりになせり。八苦つねにあり。いはんや刹那刹那に生滅して。さらにととまらず。いはんや一彈指のあひたに。六十五の刹那生滅すといへとも。みつからくらきによりて。いまたしらさるなり。すへて一日夜かあひたに六十四億九萬九千九百八十の刹那ありて。五蘊生滅すといへとも。しらさるなり。あはれむへし。われ生滅すといへとも。みつからしらさること。この刹那生滅の量。たた佛世尊ならひに舍利弗とのみしらせたまふ。餘聖おほかれとも。ひとりもしるところにあらさるなり。この刹那生滅の道理によりて。衆生すなはち善惡の業をつくる。また刹那生滅の道理によりて。衆生發心得道す。かくのことく生滅する人身なり。たとひをしむとも。とまらし。むかしよりをして。しんと。ととまれる一人。いまたなし。かくのことくわれにあらさる人身な

りといへとも。めぐらして出家受戒するかときは三世の諸佛の所證なる阿耨多羅三藐三菩提金剛不壞の佛果を證するなり。たれの智人が欣求せざらん。これによりて過去日月燈明佛の八子。みな四天下を領する王位をすてて出家す。大通智勝佛の十六子ともに出家せり。大通入定のあひた衆のために法華をとく。いまは十方の如來となれり。父王轉輪聖王の所將衆中八萬億人も。十六王子の出家をみて。出家をもとむ。輪王すなはち聽許す。妙莊嚴王の二子。ならひに父王夫人みな出家せり。しるへし大聖出現のとき。かならず出家するを正法とせりといふことあきらけし。このともからおろかにして出家せりといふへからず。賢にして出家せりとしらは。ひとしからんことをおもふへし。今釋迦牟尼佛のときは。羅睺羅阿難等みな出家し。また千釋の出家あり。二萬釋の出家あり。勝鬪といふへし。はしめ五比丘出家より。をはり須跋陀羅が出家にいたるまで。歸佛のともからず。なはち出家す。しるへし無量の功德なりといふこ

と。しかあれはすなはち世人もし子孫をあはれむことあらは。いそぎ出家せしむへし。父母をあはれむことあらは。出家をすすむへし。かるかゆゑに偈にいはいく。若無過去世。應無過去佛。若無過去佛。無出家受具。この偈は。諸佛如來の偈なり。外道の過去世なしといふを破するなり。しかあれはしるへし出家受具は。過去諸佛の法なり。われらさいはひに諸佛の妙法なる出家受戒するときにあひなからむ。なしく出家受戒せざらん。なにのさはりによるとしりかたし。最下品の依身をもて。最上品の功德を成就せん。閻浮提およひ三界のなかに。は最上品の功德なるへし。この閻浮の人身いまた滅せざらんとき。かならず出家受戒すへし。

古聖云。出家之人。雖破禁戒。猶勝在俗受持戒者。故經偏說勸人出家。其恩難報。復次勸出家者。即是勸人修尊重業。所得果報。勝瑛魔王。輪王。帝釋。故經偏說勸人出家。其恩難報。勸人受持近事戒等。無如是事故。經不證。しるへし出家して禁戒を破すといへとも。在家にて戒をやふ

らざるにはすくれたり。歸佛かならず出家受戒すくれたるへし。出家すすむる果報。琰魔王にもすくれ。輪王にもすくれ。帝釋にもすくれたり。たとひ毗舍首陀羅なれとも。出家すれば刹利にもすくるへし。なほ琰魔王にもすくれ。輪王にもすくれ。帝釋にもすくる。在家戒かくのことくならず。ゆゑに出家すへし。しるへし。世尊の所説はかゝるへからざるを。世尊および五百大阿羅漢ひろくあつめたり。まことにしりぬ佛法におきて道理あきらかなるへしといふこと。一聖三明六通の智慧なほ近代の凡師のはかるへきにあらず。いはんや五百の聖者をや。近代の凡師らかしらざるを。しりみさるところをみ。きはめさるところをきはめたりといへとも。凡師らかしれるところしらざるにあらず。しかあれば凡師の黑暗愚鈍の説をもて。聖者三明の言に比類することなかれ。

婆沙一百二十云。發心出家。尚名聖者。況得忍法。しるへし。發心出家すれば。聖者となつくるなり。釋迦牟尼佛。五百大願中。第一百三十七

を清
るはに
本作

得經
る持に
本作

願我未來成正覺已。或有諸人。於我法中。欲出家者。願無障礙。所謂羸劣失念。狂亂。憍慢。無有畏懼。癡無智慧。多諸結使。其心散亂。若不爾者。不成正覺。第一百三十八。願我未來成正覺已。若有女人。欲於我法出家學道。受大戒者。願令成就。若不爾者。不成正覺。第三百十四。願我未來成正覺已。若有衆生。少於善根。於善根中心生愛樂。我當令其於未來世。在佛法中。出家學道。安止令住。梵淨十戒。若不爾者。不成正覺。しるへし。いま出家する善男子善女人。みな世尊の往昔の大願力にたすけられて。さはりなく出家受戒することをえたり。如來すてに誓願して出家せしめまします。あきらかにしりぬ最尊最上の大功德なりといふことを。

佛言。及有依我剃除鬚髮。著袈裟片不受戒者。供養是人。亦得乃至入無畏城。以是緣故。我如是說。あきらかにしる剃除鬚髮して袈裟を著せは。戒をうけすといふとも。これを供養せん人。無畏城にいらん。又云。若復有人。爲我出家。不得禁戒。剃除鬚髮。著袈裟片。有以非法惱害

報一作本
る法に

此者乃至破壞三世諸佛法身報身乃至盈滿三惡道故。佛言若有衆生爲我出家剃除鬚髮被服袈裟設不持戒彼等悉已爲涅槃印之所印也。若復出家不持戒者有以非法而作惱亂罵辱毀譽以手刀杖打縛斫截若奪衣鉢及奪種種資生具者是人則壞三世諸佛真實報身則挑一切人天眼目是人爲欲隱沒諸佛所有正法三審種故令諸天人不得利益墮地獄故爲三惡道增長盈滿故。しるへし剃髮染衣すればたとひ不持戒なれとも無上大涅槃の印のために印せらるるなり。ひとこれを惱亂すれば三世諸佛の報身を壞するなり。逆罪とおなじかるへし。あきらかにしりぬ出家の功德。たたちに三世諸佛にちかしといふことを。

佛言。夫出家者。不應起惡。若起惡者。則非出家。出家之人。身口相應。若不相應。則非出家。我棄父母兄弟妻子眷屬知識。出家修道。正是修集諸善覺時。非是修集不善覺時。善覺者。憐愍一切衆生。猶如赤子。不善覺者。與此相違。それ出家の自性は憐愍一切衆生猶如赤子なり。これすな

はち不起惡なり。身口相應なり。その儀すてに出家なるかときは。その徳いまかくのことし。

佛言。復次舍利弗。菩薩摩訶薩。若欲出家日。即成阿耨多羅三藐三菩提。即是日轉法輪。轉法輪時。無量阿僧祇衆生。遠塵離垢。於諸法中。得法眼淨。無量阿僧祇衆生。得一切法不受故。諸漏心得解脫。無量阿僧祇衆生。於阿耨多羅三藐三菩提。得不退轉。當學般若波羅蜜。いはゆる學般若菩薩とは。祖祖なり。しかあるに阿耨多羅三藐三菩提は。かならず出家即日成就するなり。しかあれとも三阿僧祇劫に修證し。無量阿僧祇劫に修證するに。有邊無邊に染汙するにあらず。學人しるへし。

佛言。若菩薩摩訶薩。作是思惟。我於何時當捨國位。出家之日。即成無上正等菩提。還於是日。轉妙法輪。即令無量無數有情。遠塵離垢。生淨法眼。復令無量無數有情。永盡諸漏。心慧解脫。亦令無量無數有情。皆於無上正等菩提。得不退轉。是菩薩摩訶薩。欲成斯事。應學般若波羅蜜。これ

ささけ
清本に
つるけ
作るに

すなはち最後身の菩薩として王宮に降生し捨國位成正覺轉法輪
度衆生の功德を宣説ししますなり。
悉達太子從車匿邊索取摩尼雜飾莊嚴七審鞞刀。自以右手執於彼刀。
從鞘拔出即以左手攬捉紺青優鉢羅色螺髻之髮。右手自持利刀割取。
以左手擎擲置空中。時天帝釋以希有心生大歡喜捧太子髻。不令墮地。
以天妙衣承受接取。爾時諸天以彼勝上天諸供具而供養之。これ釋
迦如來そのかみ太子のとき夜半に踰城し日たけてやまにいたり
てみつから頭髮を断します。ときに淨居天きたりて頭髮を剃
除したてまつり袈裟をささけたてまつれり。これかならず如來出
世の瑞相なり。諸佛世尊の常法なり。三世十方諸佛みな一佛として
も在家成佛の諸佛まします。過去有佛のゆゑに出家受戒の功德
あり。衆生の得道かならず出家受戒によるなり。おほよそ出家受戒
の功德すなはち諸佛の常法なるかゆゑにその功德無量なり。聖教
のなかに在家成佛の説あれと正傳にあらず。女身成佛の説あれと。

無九我
の本無
清我故
我我故
無我故
るに作

作一
行に
るに
作本

またこれ正傳にあらず。佛祖正傳するは出家成佛なり。

第四祖優婆塞多尊者。有長者子。名曰提多迦。來禮尊者。志求出家。尊者
曰。汝身出家心出家。答曰。我求出家。非爲身心。尊者曰。不爲身心。復誰出
家。答曰。夫出家者。無我我所。無我我所。故即心不生滅。心不生滅。故即是
常道。諸佛亦常。心無形相。其體亦然。尊者曰。汝當大悟。心自通達。宜依佛
法僧紹隆聖種。即與出家受具。それ諸佛の法にあふたてまつりて
出家するは最第一の勝果報なり。その法すなはち我のためにあら
ず。我所のためにあらず。身心のためにあらず。身心の出家するにあ
らず。出家の我我所にあらず。道理かくのとし。我我所にあらず。
れは諸佛の法なるへし。たたこれ諸佛の常法なり。諸佛の常法なる
かゆゑに我我所にあらず。身心にあらず。三界の肩をひとし
くするところにあらず。かくのことくなるかゆゑに出家これ最上
の法なり。頓にあらず。漸にあらず。常にあらず。無常にあらず。來にあ
らず。去にあらず。住にあらず。作にあらず。廣にあらず。狹にあらず。大

清本
作にあ
らすの
句無し

清本
五無
下の
し

血傳
燈
肉に
作る

にあらず小にあらず。作にあらず。無作にあらず。佛法單傳の祖師。か
 ならず出家受戒せすといふことなし。いまの提多迦はしめて優婆
 塞多尊者にあふたてまつりて出家をもとむる道理かくのことし。
 出家受具し。優婆塞多に參學し。つひに第五の祖師となれり。
 第十七祖僧伽難提尊者。室羅闍城寶莊嚴王之子也。生而能言。常讚佛
 事。七歳即厭世樂。以偈告其父母曰。稽首大慈父。和南骨血母。我今欲出
 家。幸願哀愍故。父母固止之。遂終日不食。乃許其在家出家。號僧伽難提。
 復命沙門禪利多。爲之師。積十九載。未嘗退倦。尊者每自念言。身居王宮。
 胡爲出家。一夕天光下屬。見一路坦平。不覺徐行。約十里許。至大巖前有
 石窟焉。乃燕寂于中。父既失子。即擯禪利多。出國訪尋其子。不知所在。經
 十年。尊者得法授記已。行化至摩提國。在家出家の稱このときはし
 めてきこゆ。たたし宿善のたすくるところ。天光のなかに坦路をえ
 たり。つひに王宮をいてて石窟にいたる。まことに勝躅なり。世樂を
 いとひ俗塵をうれふるは聖者なり。五欲をしたひ出離をわするる

清本
諸
字無し

は凡愚なり。代宗肅宗しきりに僧徒にちかつけりといへとも。なほ
 王位をむさほりて。いまたなけすてす。盧居士は。すてに親を辭して
 祖となる。出家の功德なり。龐居士は。たからをすてて。ちりをすてす。
 至愚なりといふへし。盧公の道力と龐公か稽古と。比類にたらず。あ
 きらかなるはかならず出家す。くらきは家にをはる。黒業の因縁な
 り。
 南嶽懷讓禪師。一日自歎曰。夫出家者。爲無生法。天上人間。無有勝者。
 いはく無生法とは。如來の正法なり。このゆゑに天上人間にすくれ
 たり。天上といふは欲界に六天あり。色界に十八天あり。無色界に四
 種。ともに出家の道におよふことなし。
 盤山塞積禪師曰。諸禪德。可中學道。似地擎山。不知山之孤峻。如石含玉
 不知玉之無瑕。若如是者。是名出家。佛祖の正法かならずしも。知不
 知にかかはれず。出家は佛祖の正法なるかゆゑに。その功德あきら
 かなり。

鎮州臨濟院義玄禪師曰。夫出家者。須辨得平常真正見解。辨佛。辨魔。辨眞。辨偽。辨凡。辨聖。若如是辨得。名眞出家。若魔佛不辨。正是出一家入一家。喚作造業衆生。未得名爲眞正出家。いはゆる平常眞正見解といふは。深信因果。深信三審等なり。辨佛といふは。ほとけの因中果上の功德を念することあきらかなるなり。眞偽凡聖をあきらかに辨旨するなり。もし魔佛をあきらめされは。學道を俎壞し。學道を退轉するなり。魔事を覺知して。その事にしたかはされは。辨道不退なり。これを眞正出家の法とす。いたつらに魔事を佛法とおもふものおほし。近世の非なり。學者はやく魔をしり佛をあきらめ修證すへし。如來般涅槃時。迦葉菩薩白佛言。世尊。如來具足知諸根力。定知善星當斷善根。以何因緣聽其出家。佛言。善男子。我於往昔初出家時。吾弟難陀。從弟阿難。調婆達多。子羅睺羅。如是等輩。皆悉隨我出家修道。我若不聽善星出家。其人次當得紹王位。其力自在。當壞佛法。以是因緣。我便聽許出家修道。善男子。善星比丘。若不出家。亦斷善根。於無量世。都無利益。今

清本無字
許經無字
其經無字
作本無字

清本無字
是善無字
の四無字
因如無字

出家已。雖斷善根。能受持戒。供養恭敬者。舊長宿有德之人。修習初禪。乃至四禪。是名善因。如是善因。能生善法。善法既生。能修習道。既修習道。當得阿耨多羅三藐三菩提。是故我聽善星出家。善男子。若我不聽善星比丘出家受戒。則不得稱我爲如來具足十力。善男子。佛觀衆生具足善法。及不善法。是人雖具如是二法。不久能斷一切善根。具不善根。何以故。如是衆生。不親善友。不聽正法。不善思惟。不如法行。以是因緣。能斷善根。具不善根。しるへし。如來世尊。あきらかに衆生の斷善根となるへきをしらせたまふといへとも。善因をさつくとして。出家をゆるさせたまふ。大慈大悲なり。斷善根となること。善友にちかすかす。正法をきかす。善思惟せず。如法に行せざるにより。いま學者かならず。善友に親近すへし。善友とは。諸佛ましますとくとなり。罪福ありとをしふるなり。因果を撥無せざるを。善友とし。善知識とす。この人の所説。これ正法なり。この道理を思惟する。善思惟なり。かくのことく行する。如法行なるへし。しかあれば。すなはち衆生は親疎をえらば

す。たた出家受戒をすすむへし。のちの退不退をかへりみされ。修不修をおそるることなかれ。これまさに釋尊の正法なるへし。佛告諸比丘。當知閻羅王。便作是說。我當何日脫此苦難於人中生。以得人身。便得出家。剃除鬚髮。著三法衣。出家學道。閻羅王尙作是念。何況汝等。今得人身。得作沙門。是故諸比丘。當念行身口意行。無令有缺。當滅五結修行五根。如是諸比丘。當作是學。爾時諸比丘。聞佛所說。歡喜奉行。あきらかにしりぬたとひ閻羅王なりといへとも。人中の生をこひねかふことかくのことし。すてにうまれたる人いそき剃除鬚髮し。著三法衣して。學佛道すへし。これ餘趣にすぐれたる人中の功德なりしかあるを人間にうまれなからいたつらに官途世路を貪求し。むなしく國王大臣のつかはしめとして。一生を夢幻にめぐらし。後世は黑闇におもむき。いまたたのむところなきは至愚なり。すてにうけかたき人身をうけたるのみにあらず。あひかたき佛法にあひたてまつれり。いそき諸縁を抛捨し。すみやかに出家學道すへし。國

王大臣妻子眷屬はところことにならすあふ。佛法は優曇華のこどくにしてあひかたし。おほよそ無常たちまちにいたるときは。國王大臣。親暱從僕。妻子珍寔。たすくるなし。たたひとり黃泉におもむくのみなり。おのれにしたかひゆくは。たたこれ善惡業等のみなり。人身を失せんとき。人身ををしむこころふかかるへし。人身をたもてるるときは。やく出家すへし。まさにこれ三世の諸佛の正法なるへし。その出家行法に四種あり。いはゆる四依なり。一。盡形壽樹下坐。二。盡形壽著糞掃衣。三。盡形壽乞食。四。盡形壽有病服陳棄藥。共行此法。方名出家。方名爲僧。若不行此。不名爲僧。是故名出家行法。いま西天東地。佛祖正傳するところ。これ出家行法なり。一生不離叢林なるは。すなはちこの四依の行法そなはれり。これを行四依と稱す。これに違して五依を建立せん。しるへし邪法なり。たれか信受せん。たれか忍聽せん。佛祖正傳するところ。これ正法なり。これによりて出家する人間最上最尊の慶幸なり。このゆゑに西天竺國には。すなはち難陀阿

り
の
本
下

難調達阿那律摩訶男拔提。ともにこれ師子頰王のむまこ。刹利種姓のもと尊貴なるなり。はやく出家せり。後代の勝鬪なるへし。いま刹利にあらざらんともから。その身をしむへからず。王子にあらざらんともから。なにのをしむところかあらん。閻浮提最第一の尊貴より。三界最第一の尊貴に歸するはすなはち出家なり。自餘の諸小國王。諸離車衆。いたつらにをしむへからざるをしみ。ほこるへからざるにほこり。ととまるへからざるにとまりて。出家せざらん。たれかつたなしとせざらん。たれか至愚なりとせざらん。羅睺羅尊者は。菩薩の子なり。淨飯王のむまこなり。帝位をゆつらんとす。しかあれとも世尊あなかに出家せしめまします。しるへし出家の法最尊なりと。密行第一の弟子として。いまにいたりて。いままた涅槃にいらまします。衆生の福田として。世間に現住します。西天傳佛正法眼藏の祖師のなかに。王子の出家せるしげし。いま震旦の初祖。これ香至王第三皇子なり。王位をおもくせず。正法を傳持せり。出

家の最尊なるあきらかにしりぬへし。これらにならふるにおよはざる身をもちなから。出家しつへきにおきていそがざらん。いかならん明日をかまつへき。出息入息をまたす。いそき出家せん。それかしこかるへし。またしるへし。出家受戒の師。その恩徳すなはち父母にひとしかるへし。」

禪苑清規第一云。三世諸佛。皆曰出家成道。西天二十八祖。唐土六祖。傳佛心印。盡是沙門。蓋以嚴淨毗尼。方能洪範三界。然則參禪問道。戒律爲先。既非離過防非。何以成佛作祖。たとひ澆風の叢林なりとも。なほこれ蘆葡萄の林なるへし。凡木凡艸のおよふところにあらず。また合水の乳のことし。乳をもちゐるとき。この和水の乳をもちゐるへし。餘物をもちゐるへからず。しかあればすなはち三世諸佛。皆曰出家成道の正傳。もともこれ最尊なり。さらに出家せざる三世諸佛。おはしまさず。これ佛佛祖正傳の正法眼藏涅槃妙心無上菩提なり。

正法眼藏出家功德

建長七年乙卯夏安居日

正法眼藏供養諸佛

佛言。若無過去世。應無過去佛。若無過去佛。無出家受具。あきらかにしるへし三世にかならず諸佛ましますなり。しはらく過去の諸佛におきて。そのはしめありといふことなかれ。そのはしめなしといふことなかれ。もし始終の有無を邪計せは。さらに佛法の習學にあらず。過去の諸佛を供養したてまつり。出家し隨順したてまつるか。こときかならず諸佛となるなり。供養の功德によりて作佛するなり。いままたかつて一佛をも供養したてまつらざる衆生。なにによりてか作佛することあらん。無因作佛あるへからず。

佛本行集經第一供養品 曰。佛告目犍連。我念往昔。於無量無邊諸世尊所。種諸善根。乃至求於阿耨多羅三藐三菩提。目犍連。我念往昔。作轉輪聖王。身值三十億佛。皆同一號。號釋迦。如來及聲聞衆。尊重承事。恭敬供養。四事具足。所謂衣服。飲食。臥具。湯藥。時彼諸佛。不與我記。汝當得阿耨多羅三藐三菩提。及世間解。天人師。佛世尊。於未來世。得成正覺。目犍連。我念

往昔作轉輪聖王身。值八億諸佛。皆同一號。號然燈。如來及聲聞衆。尊重恭敬。四事供養。所謂衣服。飲食。臥具。湯藥。旛蓋華香。時彼諸佛。不與我記。汝當得阿耨多羅三藐三菩提。及世間解。天人師。佛世尊。自憍連。我念往昔。作轉輪聖王身。值三億諸佛。皆同一號。號弗沙。如來及聲聞衆。四事供養。皆悉具足。時彼諸佛。不與我記。汝當作佛。このほかそこはくの諸佛を供養します。轉輪聖王の身としては。かならず四天下を統領すへし。供養諸佛の具まことに豊饒なるへし。もし大轉輪王ならば。三千界に王なるへし。そのときの供養。いまの凡慮はからるへからず。ほとけときましますとも。解了することえかたからん。

去經本
世に同
る下作

佛藏經淨見品第八。曰。佛告舍利弗。我念過去。求阿耨多羅三藐三菩提。值三十億佛。皆號釋迦牟尼。我時皆作轉輪聖王。盡形供養佛及諸弟子。衣服。飲食。臥具。醫藥。爲求阿耨多羅三藐三菩提。而是諸佛。不記我言。汝於來世。當得作佛。何以故。以我有所得故。舍利弗。我念過去。得值八千佛。皆號定光。我時皆作轉輪聖王。盡形供養佛及諸弟子。衣服。飲食。臥具。醫藥。爲

染清本
法に作
るに本

清本
具二字
無し供

求阿耨多羅三藐三菩提。而是諸佛。不記我。汝於來世。當得作佛。何以故。以我有所得故。舍利弗。我念過去。值六萬億佛。皆號光明。我時皆作轉輪聖王。盡形供養佛及諸弟子。衣服。飲食。臥具。醫藥。爲求阿耨多羅三藐三菩提。而是諸佛。亦不記我。汝於來世。當得作佛。何以故。以我有所得故。舍利弗。我念過去。值三億佛。皆號弗沙。我時皆作轉輪聖王。四事供養。皆不記我。以有所得故。舍利弗。我念過世。得值萬八千佛。皆號山王。劫名上八。我皆於此。萬八千佛所。剃髮染衣。修習阿耨多羅三藐三菩提。皆不記我。以有所得故。舍利弗。我念過世。得值五百佛。皆號華上。我時皆作轉輪聖王。悉以一切。供養諸佛及諸弟子。皆不記我。以有所得故。舍利弗。我念過世。得值五百佛。皆號威德。我悉供養。皆不記我。以有所得故。舍利弗。我念過世。得值二千佛。皆號憍陳如。我時皆作轉輪聖王。悉以一切。供具。供養諸佛。皆不記我。以有所得故。舍利弗。我念過世。值九千佛。皆號迦葉。我以四事。供養諸佛及弟子衆。皆不記我。以有所得故。舍利弗。我念過去。於萬劫中。無有佛出。爾時初五百劫。有九萬辟支佛。我盡形壽。悉皆供養衣服。

經本一
の字無
清本無
字無し中

飲食臥具醫藥尊重讚歎。次五百劫復以四事供養八萬四千億諸辟支佛。尊重讚歎。舍利弗。過是千劫已。無復辟支佛。我時閻浮提死。生梵世中。作大梵王。如是展轉五百劫中。常生梵世。作大梵王。不生閻浮提。過是五百劫已。下生閻浮提。治化閻浮提。命終生四天王天。於中命終。生初利天。王。舍利弗。我於九千劫中。但一生閻浮提。九千劫中。但生天上。劫盡燒時。生光音天。世界成已。還生梵世。九千劫中。都不生人中。舍利弗。是九千劫中。無有諸佛。辟支佛。多諸衆生。墮在惡道。舍利弗。是萬劫過已。有佛出世。號曰普守如來。應供。正遍知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。佛世尊。我於爾時。梵世命終。生閻浮提。作轉輪聖王。號曰共天。人壽九萬歲。我盡形壽。以一切樂具。供養彼佛及九十億比丘。於九萬歲。爲求阿耨多羅三藐三菩提。是普守佛。亦不記我。汝於來世。當得作佛。何以故。我於爾時。不能通達諸法實相。貪著計我有所得見。舍利弗。於是劫中。有百佛。出名號各異。我時皆作轉輪聖王。盡形供養佛及諸弟子。爲求阿耨多

羅三藐三菩提。而是諸佛。亦不記我。汝於來世。當得作佛。以有所得故。舍利弗。我念過去第七百阿僧祇劫中。得值千佛。皆號閻浮檀。我盡形壽。四事供養。亦不記我。以有所得故。舍利弗。我念過去。亦於第七百阿僧祇劫中。得值六百二十萬諸佛。皆號見一切儀。我時皆作轉輪聖王。以一切樂具。盡形供養佛及諸弟子。亦不記我。以有所得故。舍利弗。我念過去。亦於第七百阿僧祇劫中。得值八十四佛。皆號帝相。我時皆作轉輪聖王。以一切樂具。盡形供養佛及諸弟子。亦不記我。以有所得故。舍利弗。我念過去。亦於第七百阿僧祇劫中。得值十五佛。皆號日明。我時皆作轉輪聖王。以一切樂具。盡形供養佛及諸弟子。亦不記我。以有所得故。舍利弗。我念過去。亦於第七百阿僧祇劫中。得值六十二佛。皆號善寂。我時皆作轉輪聖王。以一切樂具。盡形供養。亦不記我。以有所得故。如是展轉。乃至見定光佛。乃得無生忍。卽記我言。汝於來世。過阿僧祇劫。當得作佛。號釋迦牟尼。如來。應供。正遍知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。佛世尊。はしめ三十億の釋迦牟尼佛にあひたてまつりて。盡形壽供養よ

清本
字無し

りこのかた。定光如來にあふたてまつらせたまふまで。みなつねに
轉輪聖王の身として。盡形壽供養したてまつりまします。轉輪聖王
おほくは八萬歳已上なるへし。あるひは九萬歳。八萬歳の壽量。その
あひたの一切樂具の供養なり。定光佛とは。然燈如來なり。三十億の
釋迦牟尼佛にあひたてまつりまします。佛本行集經ならひに佛藏
經の説おなし。

釋迦菩薩。初阿僧企耶。逢事供養七萬五千佛。最初名釋迦牟尼。最後名
寔髻。第二阿僧企耶。逢事供養七萬六千佛。最初即寔髻。最後名燃燈。第
三阿僧企耶。逢事供養七萬七千佛。最初即然燈。最後名勝觀。於修相異
熟業九十一劫中。逢事供養六佛。最初即勝觀。最後名迦葉波。おほよ
そ三大阿僧祇劫の供養諸佛はしめ身命より國城妻子七寶男女等。
さらにをしむところなし。凡慮のおよふところにあらず。あるひは
黄金の粟を白銀の盃にもりみて。あるひは七寶の粟を金銀の盃に
もりみて。供養したてまつる。あるひは小豆。あるひは水陸の華。あ

るひは梅檀沈水香等を供養したてまつり。あるひは五莖の青蓮華
を五百の金錢をもて買取して。然燈佛を供養したてまつりましま
す。あるひは鹿皮衣。これを供養したてまつる。おほよそ供佛は諸佛
の要樞にましますへきを供養したてまつるにあらず。いそきわか
いのちの存せる光陰をむなくすこさす供養したてまつるなり。
たとひ金銀なりとも。ほとけのおほんため。なにの益かあらん。たと
ひ香華なりとも。またほとけのおほんため。なにの益かあらん。しか
あれとも納受せさせたまふは。衆生をして功德を増長せしめんた
めの大慈大悲なり。

大槃涅槃經第二曰。佛言。善男子。我念過去無量無邊那由佗劫。爾時世
界名曰娑婆。有佛世尊。號釋迦牟尼如來。應供正遍知。明行足。善逝。世間
解。無上士。調御丈夫。天人師。佛世尊。爲諸大衆宣說如是。大涅槃經。我於
爾時。從善友所。轉聞彼佛。當爲大衆說。大涅槃。我聞是已。其心歡喜。欲設
供養。居貧無物。欲自賣身。薄福不售。即欲還家。路見一人。而便語言。吾欲

君清本
若に作

賣身。君能買不。其人答曰。我家作業。人無堪者。汝設能爲。我當買汝。我即問言。有何作業。人無能堪。其人見答。吾有惡病。良醫處藥。應當日服。人肉三兩。卿若能以身肉三兩。日日見給。便當與汝金錢五枚。我時聞已。心中歡喜。我復語言。汝與我錢。暇我七日。須我事訖。便還相就。其人見答。七日不可。審能爾者。當許。一日。善男子。我於爾時。即取其錢。還至佛所。頭而禮足。盡其所有。而以奉獻。然後誠心聽受。是經。我是時聞。雖得聞經。唯能受持一偈。文句。如來證涅槃。永斷於生死。若有至心聽。常得無量樂。受是偈已。即便還至彼病人家。善男子。我時雖復。日日與三兩肉。以念偈因緣。故。不以爲痛。日日不廢。具滿一月。善男子。以是因緣。其病得瘥。我身平復。亦無瘡痕。我時見身。具足完具。即發阿耨多羅三藐三菩提心。一偈之力。尙能如是。何況具足受持讀誦。我見此經。有如是利。復倍發心。願於未來。得成佛道。字釋迦牟尼佛。善男子。以是一偈因緣。力故。令我今日。於大眾中。爲諸天人。具足宣說。善男子。以是因緣。是天涅槃。不可思議。成就無量無邊功德。乃是諸佛如來。甚深秘密之藏。そのときの賣身の菩薩は。

今釋迦牟尼佛の往因なり。陀經を會通すれば。初阿僧祇劫の最初。古釋迦牟尼佛を供養したてまつりましますときなり。かのときは。瓦師なり。その名を大光明と稱す。古釋迦牟尼佛ならひに。諸弟子に供養するに。三種の供養をもてす。いはゆる艸座。石蜜漿。然燈なり。そのときの發願。いはく。國土名號壽命弟子。一如今釋迦牟尼佛。かのときの發願。すてに今日成就するものなり。しかあれは。すなはちほとけを供養したてまつらんとするに。その身まつしといふことなかれ。そのいへまつしといふことなかれ。みつから身をうりて。諸佛を供養したてまつるは。いま大師釋尊の正法なり。たれかこれを隨喜歡喜したてまつらざらん。このなかに。日に三兩の身肉を割取するぬしにあふ。善知識なりといへとも。陀人のたふへからさるなり。しかあれとも。供養の淡志のたすくるところ。いまの功德あり。いまわれら如來の正法を聽聞する。かの往古の身肉を處分せられたるなるへし。いまの四句の偈は。五枚の金錢にかふるところにあらず。

三阿僧祇一百大劫のあひた。受生捨生にわするることなく。彼佛是佛のところに。證明せられきたりましますところまことに不可思議の功德あるへし。遺法の弟子。ふかく頂戴受持すへし。如來すてに一偈之力尙能如是と宣説します。もともおほきにふかかるへし。

法華經曰。若人於塔廟。寶像及畫像。以華香旛蓋。敬心而供養。若使人作樂。擊鼓吹角。唄簫笛琴箜篌。琵琶鏡銅鈸。如是衆妙音。盡持以供養。或以歡喜心。歌頌頌佛德。乃至一小音。皆已成佛道。若人散亂心。乃至以一華供養於畫像。漸見無數佛。或有人禮拜。或復但合掌。乃至舉一手。或復少低頭。以此供養像。漸見無量佛。自成無上道。廣度無數衆。これすなはち三世諸佛の頂顙なり。眼睛なり。見賢思齊の猛利精進すへし。いたつらに光陰をわたることなかれ。石頭無際大師いはく。光陰莫虛度かくのこときの功德。みな成佛す。過去現在未來おなしかるへし。さらには二あり三あるへからず。供養佛の因によりて。作佛の果を成す

るひとかくのことし。

龍樹祖師曰。如求佛果。讚歎一偈。稱一南謨。燒一捻香。奉獻一華。如是小行。必得作佛。これひとり龍樹祖師菩薩の所説といふとも。歸命したてまつるへし。いかにいはんや大師釋迦牟尼佛説を。龍樹祖師正傳舉揚します。ますところなり。われらいま佛道の塞山にのほり。佛道の塞海にいりて。さいはひにたからをとれる。もともよるこふへし。曠劫の供佛のちからなるへし。必得作佛うたかふへからず。決定せるものなり。釋迦牟尼佛の所説かくのことし。

復次。有小因大果。小緣大報。如求佛道。讚一偈。一稱南無佛。燒一捻香。必得作佛。何況聞知諸法實相。不生不滅。不生不滅。而行因緣業。亦不失。世尊の所説。かくのことく。あきらかなるを。龍樹祖師したしく。正傳します。ますなり。誠諦の金言。正傳の相承あり。たとひ龍樹祖師の所説なりとも。餘師の説に比すへからず。世尊の所示を。正傳流布します。ますにあふことをえたり。もともよるこふへし。これらの聖

清本知
字下無

教をみたりに東土の凡師の虚設に比量することなかれ。
 龍樹祖師曰。復次諸佛恭敬法。故供養於法。以法爲師。何以故。三世諸佛
 皆以諸法實相爲師。問曰。何以不自供養身中法。而供養他法。答曰。隨世
 問法。如比丘欲供養法。而不自供養身中法。而供養餘持法。知法解法者。
 佛亦如是。雖身中有法。而供養餘佛法。問曰。如佛不求福德。何以故供養。
 答曰。佛從無量阿僧祇劫中。修諸功德。常行諸善。不但求報。敬功德故。而
 作供養。如佛在時。有一盲比丘。眼無所見。而以手縫衣。時針袈脫。便言。誰
 愛福德。爲我袈針。是時佛到其所。語比丘。我是愛福德人。爲汝袈來。是比
 丘。識佛聲。疾起著衣。禮佛足。白佛言。佛功德已滿。云何言愛福德。佛報言。
 我雖功德已滿。我淡知功德。因功德果報。功德力。今我於一切衆生中。得
 最第一。由此功德。是故我愛佛。爲此比丘。讚功德已。次爲隨意說法。是比
 丘得法眼淨。肉眼更明。この因縁むかしは先師の室にして夜話を
 きく。のちには智度論の文にむかふてこれを檢校す。傳法祖師の示
 誨。あきらかにして遺落せず。この文。智度論第十にあり。諸佛かなら

清本因
は恩に
作る令
同今作
に作る

す諸法實相を大師としますことあきらけし。釋尊また諸佛の
 常法を證します。いはゆる諸法實相を大師とするといふは。佛
 法僧三寶を供養恭敬したてまつるなり。諸佛は。無量阿僧祇劫。そこ
 はくの功德善根を積集して。さらにその報をもとめず。ただ功德を
 恭敬して供養しますなり。佛果菩提のくらゐにいたりてなほ
 小功德を愛し。盲比丘のために袈針します。佛果の功德をあき
 らめんとおもはは。いまの因縁。まさしく消息なり。しかあれはすな
 はち佛果菩提の功德。諸法實相の道理。いまのよにある凡夫のおも
 ふかことくには。あらざるなり。いまの凡夫のおもふところは。造惡
 の諸法實相ならんとおもふ。有所得のみ佛果菩提ならんとおもふ。
 かくのことくの邪見は。たとひ八萬劫をしるといふとも。いまた本
 劫本見末劫末見をのかれす。いかてか唯佛與佛の究盡します。す
 ところの諸法實相を究盡することあらん。ゆゑいかんとなれば。唯
 佛與佛の究盡します。すところ。これ諸法實相なるかゆゑなり。

し一本
ふに作
る本

おほよそ供養に十種あり。いはゆる一者身供養。二者支提供養。三者現前供養。四者不現前供養。五者自作供養。六者佗作供養。七者財物供養。八者勝供養。九者無染供養。十者至處道供養。

このなかの第一身供養とは。於佛色身而設供養。名身供養。

第二供佛靈廟。名支提供養。僧祇律曰。有舍利者。名爲塔婆。無舍利者。說

爲支提。或曰。通名支提。又梵曰塔婆。稱偷婆。此翻方墳。亦言靈廟。阿含言

支徵。知荷反あるひは塔婆と稱し。あるひは支提と稱するおなしき

にいたれとも。南嶽思大禪師の法華懺法にいはく。一心敬禮十方世

界舍利尊像支提妙塔。多寶如來。全身寶塔。あきらかに支提と妙塔と。

舍利と尊像とは別なるかことし。僧祇律第三曰。塔法者。佛住拘薩羅

國遊行。時有婆羅門耕地。見世尊行過。持牛杖拄地禮佛。世尊見已。便發

微笑。諸比丘白佛。何因緣故笑。唯願欲聞。佛便告諸比丘。是婆羅門。今禮

二世尊。諸比丘白佛言。何等二佛。佛告諸比丘。禮我當其杖下。有迦葉佛

塔。諸比丘白佛言。願見迦葉佛塔。佛告諸比丘。汝從此婆羅門。索土塊。竝

是地。諸比丘即便索之。時婆羅門便與之。得已。爾時世尊即現出迦葉佛

七寶塔。高一由延。面廣半由延。婆羅門見已。即便白佛言。世尊。我姓迦葉。

是我迦葉塔。爾時世尊。即於彼家作迦葉佛塔。諸比丘白佛言。世尊。我得

授泥土不。佛言。得授。即時說偈言。眞金百千擔。持用行布施。不如一團泥。

敬心治佛塔。爾時世尊。自起迦葉佛塔。下基四方。周而欄楯。圓起二重。方

牙四出。上施旛蓋。長表輪相。佛言。作塔法應如是。塔成已。世尊敬過去佛

故。便自作禮。諸比丘白佛言。世尊。我得作禮不。佛言。得。即說偈言。人等百

千金。持用行布施。不如一善心。恭敬禮佛塔。爾時世人聞世尊作塔。持香

華來。奉世尊。世尊供養過去佛故。即受香華。持供養塔。諸比丘白佛言。我

等得供養不。佛言。得。即說偈言。百千車眞金。持用行布施。不如一善心。華

香供養塔。爾時大衆雲集。佛告舍利弗。汝爲諸人說法。佛即說偈言。百千

閻浮提。滿中眞金。施不如一法施。隨順令修行。爾時座中有得道者。佛即

說偈言。百千世界中。滿中眞金。施不如一法施。隨順見眞諦。爾時婆羅門。

得不壞信。即於塔前。飯佛及僧。時波斯匿王聞世尊造迦葉佛塔。即敕載

供養清
本恭敬
化作

得
本無
字

薄律本
銀に作る

七百車博來詣佛所頭面禮足。白佛言。世尊。我欲廣作此塔。爲得不。佛言。得。佛告大王。過去世時。迦葉佛般泥洹時。有王名吉利。欲作七寶塔。時有臣白王。未來世當有非法人出。當破此塔。得重罪。唯願大王當以博作金銀覆上。若取金銀者。塔故在得全。王即如臣言。以博作金薄。覆上高一由延。面廣半由延。銅作欄楯。經七年七月七日乃成。成已。香華供養佛及比丘僧。波斯匿王白佛言。彼王福德多有珍寶。我今當作不及。彼王即便作經。七月七日乃成。成已。供養佛及比丘僧。作塔法者。下基四方。周而欄楯。圓起二重。方牙四出。上施旛蓋。長表輪相。若言世尊已除貪欲。瞋恚愚癡。用是塔爲得。越毗尼罪業報重故。是名塔法。塔事者。起僧伽藍時。先預度好地。作塔處。塔不得在南。不得在西。應在東。應在北。不得僧地。侵佛地。佛地不得侵僧地。若塔近死尸林。若狗食殘。持來汙地。應作垣牆。應在西。若南作僧坊。不得使僧地。水流入佛地。佛地水得流入僧地。塔應在高顯處。作不得在塔垣中。浣染曬衣。著革屣。覆頭。覆肩。漬唾地。若作是言。世尊貪欲。瞋恚愚癡已除。用是塔爲得。越毗尼罪業報重故。是名塔事。塔龕者。

薄本四
上面字有

爾時波斯匿王。往詣佛所頭面禮足。白佛言。世尊。我等爲迦葉佛作塔。得作龕不。佛言。得。過去世時。迦葉佛般泥洹後。吉利王爲佛起塔。四面作龕。上作獅子像。種種彩畫。前作欄楯。安置華處。龕內懸旛蓋。若人言。世尊貪欲。瞋恚愚癡已除。但自壯嚴。而受樂者。得越毗尼罪業報重。是名塔龕。あきらかにしりぬ。佛果菩提のうへに。古佛のために塔をたて。これを禮拜供養したてまつる。これ諸佛の常法なり。かくのことくの事おほけれとしはらく。これを舉揚す。佛法は有部すくれたり。そのなかに僧祇律もとも根本なり。僧祇律は法顯はしめて荆棘をひらきて。西天にいたり。靈山にのほれりしついでに。將來するところなり。祖祖正傳しきたれる法。まさしく有部に相應せり。」

第三現前供養。面對佛身及與支提。而設供養也。」

第四不現前供養。於不現前佛及支提。廣設供養。謂現前共不現前。供養佛及支提塔廟。並供不現前佛及支提塔廟。現前供養。得大功德。不現前供養。得大功德。境寬廣故。現前不現前供養者。得最大大功德。

第五自作供養。自身供養佛及支提。

第六佗作供養佛及支提。有少財物。不依懈怠。教佗施作也。謂自佗供養。彼此同爲。自作供養得大功德。教佗供養得大大功德。自佗供養得最大、大功德。

第七財物供養佛及支提塔廟舍利。謂財有三種。一資具供養。謂衣食等。二敬具供養。謂香華等。三嚴具供養。謂餘一切寶莊嚴等也。

第八勝供養。勝有三。一專設種種供養。二純淨信心。信佛德重理合供養。三廻向心。求佛心中而設供養。

第九無染供養者。無染有二。一心無染。離一切過。二財物無染。離非法過。第十至處道供養。謂供養順果。名至處道供養。佛果是其所至之處。供養之行。能至彼處。名至處道。至處道供養。或名法供養。或名行供養。就中有三。一財物供養爲至處道供養。二隨喜供養爲至處道供養。三修行供養爲至處道供養。供養於佛。既有此十供養。於法於僧。類亦同然。謂供養法者。供養佛所說理教行法。並供養經卷。供養僧者。謂供養一切三乘聖衆。

及其支提。並其形像塔廟。及凡夫僧。

次供養心有六種。一福田無上心。生福田中最勝。二恩德無上心。一切善樂。依三寶出生。三生一切衆生最勝心。四如優曇鉢華難遇心。五三千大千世界殊獨一心。六一切世間出世間具足依義心。謂如來具足世間出世間法。能與衆生爲依止處。名具足依義。以此六心。雖是少物。供養三寶。能獲無量無邊功德。何況其多。かくのことくの供養。かならず誠心に修設すへし。諸佛かならず修しきたりましますところなり。その因縁あまねく經律にあきらかなれとも。なほ佛祖まのあたり正傳しきたりまします。執侍服勞の日月すなはち供養の時節なり。形像舍利を安置し。供養禮拜し。塔廟をたて支提をたつる儀則。ひとり佛祖の屋裡に正傳せり。佛祖の兒孫にあらされは。正傳せず。またもし如法に正傳せされは。法儀相違す。法儀相違するかときは。供養まことならず。供養まことならずされは。功德おろそかなり。かならず如法供養の法をならひ正傳すへし。令韜禪師は。曹谿の塔頭に陪侍し

頭一作本
る廟に

て年月をおくり。虚行者は晝夜にやすます。確米供衆する。みな供養の如法なり。これその少分なり。しけくあくるにいとまあらす。かくのことく供養すへきなり。

正法眼藏供養諸佛

建長七年夏安居日

正法眼藏歸依三寶

禪苑清規曰。敬佛法僧否。問 第一百二十 あきらかにしりぬ。西天東土。佛

祖正傳するところは恭敬佛法僧なり。歸依せされは恭敬せず。恭敬せされは歸依すへからず。この歸依佛法僧の功德。かならず感應道交するとき成就するなり。たとひ天上人間地獄鬼畜なりといへとも。感應道交すれば。かならず歸依したてまつるなり。すでに歸依したてまつるかときは。生生世世在在處處に増長し。かならず積功累徳し。阿耨多羅三藐三菩提を成就するなり。おのつから悪友にひかれ。魔障にあふて。しはらく斷善根となり。一闡提となれとも。つひには續善根し。その功德増長するなり。歸依三寶の功德つひに不朽なり。その歸依三寶とは。まさに淨信をもはらにして。あるひは如來現在世にもあれ。あるひは如來滅後にもあれ。合掌し低頭して。口になへていはく。

我某甲從今身至佛身。歸依佛。歸依法。歸依僧。歸依佛兩足尊。歸依法離

伏一に本作
伏に作
伏上に
同じに

欲尊。歸依僧衆中尊。歸依佛竟。歸依法竟。歸依僧竟。」はるかに佛果菩提をこころさして。かくのことく僧那を始發するなり。しかあれはすなはち身心いまま刹那刹那に生滅すといへとも。法身かならず長養して菩提を成就するなり。いはゆる歸依とは。歸は歸投なり。依は依伏なり。このゆるゑに歸依といふ。歸投の相はたとへは子の父に歸するかことし。依伏はたとへは民の王に依するかことし。いはゆる救濟の言なり。佛はこれ大師なるかゆるゑに歸依す。法は良藥なるかゆるゑに歸依す。僧は勝友なるかゆるゑに歸依す。問。何故偏歸此三答。以此三種畢竟歸處。能令衆生出離生死。證大菩提。故歸。此三種畢竟不可思議功德なり。佛は西天には佛陀耶と稱す。震旦には覺と翻す。無上正等覺なり。法は西天には達磨と稱す。また曇無と稱す。梵音の不同なり。震旦には法と翻す。一切の善惡無記の法。ともに法と稱すといへとも。いま三寶のなかの歸依するところの法は。軌則の法なり。僧は西天には僧伽と稱す。震旦には和合衆と翻す。かくのことく稱

論清本作
理に作

讚しきたれり。

住持三寶。形像塔廟佛寶。黃紙朱軸所傳法寶。剃髮染衣。戒法儀相僧寶。化儀三寶。釋迦牟尼世尊佛寶。所轉法輪。流布聖教法寶。阿若憍陳如等五人僧寶。理體三寶。五分法身。名爲佛寶。滅諦無爲。名爲法寶。學無學功德。名爲僧寶。二體三寶。證理大覺。名爲佛寶。清淨離染。名爲法寶。至理和合。無擁無滯。名爲僧寶。かくのことくの三寶に歸依したてまつれるなり。もし薄福少徳の衆生は。三寶の名字なほききたてまつらざるなり。いかにいはんや歸依したてまつることをえんや。

法華經曰。是諸罪衆生。以惡業因緣。過阿僧祇劫。不聞三寶名。法華經は。諸佛如來。一大事因緣なり。大師釋尊所説の諸經のなかには。法華經これ大王なり。大師なり。餘經餘法は。みなこれ法華經の臣民なり。眷屬なり。法華經中の所説これまことなり。餘經中の所説。みな方便を帶せり。ほとけの本意にあらず。餘經中の説をきたして。法華經に比較したてまつらん。これ逆なるへし。法華の功德力をかうふらさ

れは餘經あるへからず。餘經みな法華に歸投したてまつらんことをまつなり。この法華經のなかにいまの説まします。しるへし三寶の功德。まさに最尊なり。最上なりといふことを。

世尊言。衆人怖所逼。多歸依諸山園苑及叢林。孤樹制多等。此歸依非勝。此歸依非尊。不因此歸依能解脫衆苦。諸有歸依佛及歸依法僧。於四聖諦中。恒以慧觀察。知苦知苦集。知永超衆苦。知八支聖道。趣安穩涅槃。此歸依最勝。此歸依最尊。必因此歸依能解脫衆苦。世尊あきらかに一切衆生のためにしめします。衆生いたつらに所逼をおそれて。山神鬼神等に歸依し。あるひは外道の制多に歸依することなかれ。かれはその歸依によりて衆苦を解脫することなし。おほよそ外道の邪教にしたかふて。牛戒。鹿戒。羅刹戒。鬼戒。癩戒。犛戒。狗戒。雞戒。雉戒。以灰塗身。長髮爲相。以羊祠時。先咒後殺。四月事火。七日服風。百千億華。供養諸天。諸所欲願。因此成就。如是等法。能爲解脫因者。無有是處。智者所不讚。唐苦無善報。かくのことくなるかゆゑにいたつらに邪道に

歸せざらんこと。あきらかに甄究すへし。たとひこれらの戒にことなる法なりとも。その道理も。し孤樹制多等の道理に符合せらんは。歸依することなかれ。人身うることかたし。佛法あふことまれなり。いたつらに鬼神の眷屬として一生をわたり。むなく邪見の流類として多生をすこさん。かなしむへし。はやく佛法僧の三寶に歸依したてまつりて。衆苦を解脫するのみにあらず。菩提を成就すへし。希有經曰。教化四天下。及六欲天。皆得四果。不如一人受三歸功德。四天下とは。東西南北洲なり。そのなかに北洲は三乘の化いたらさるところなり。かしこの一切衆生を教化して。阿羅漢となさん。まことにはなはた希有なりとすへし。たとひその益ありとも。一人ををしへて三歸をうけしめん。功德にはおよふへからず。また六天は得道の衆生まれなりとするところなり。かれをして四果をえせしむとも。一人の受三歸の功德のおほくふかきにおよふへからず。增一阿含經曰。有初利天子。五衰相現。當生猪中。愁憂之聲。聞於天帝天

帝聞之。喚來告曰。汝可歸依三寶。即時如教。便免生豬。佛說偈言。諸有歸依佛。不墜三惡道。盡漏處。人天。便當至涅槃。受三歸已。生長者家。還得出家。成於無學。おほよそ歸依三寶の功德はかりはかるべきにあらず。無量無邊なり。

世尊在世に二十六億の餓龍ともに佛所に詣し。みなことごとくあめのことくなみたをふらしてまうしてまうさく。唯願哀愍。救濟於我。大悲世尊。我等憶念過去世時。於佛法中。雖得出家。備造如是種種惡業。以惡業故。經無量身。在三惡道。亦以餘報故。生在龍中。受極大苦。佛告諸龍。汝等今當盡受三歸。一心修善。以此緣故。於賢劫中。值最後佛。名曰樓至。於彼佛世。罪得除滅。時諸龍等。聞是語已。皆悉至心。盡其形壽。各受三歸。ほとけみつから諸龍を救濟しましたすに。餘法なし。餘術なし。ただ三歸をさつけまします。過去世に出家せしとき。かつて三歸をうけたりといへとも。業報によりて餓龍となれるとき。餘法のこれをすくふべきなし。このゆゑに三歸をさつけまします。しるへし

三歸の功德。それ最尊最上甚深不可思議なりといふこと。世尊すてに證明しまします。衆生まさに信受すへし。十方の諸佛の名號を稱念せしめまします。また三歸をさつけまします。佛意の甚深なる。たれかこれを測量せん。いまの衆生。いたつらに各各の一佛の名號を稱念せんよりは。すみやかに三歸をうけたてまつるへし。愚闇にして大功德をむなしくすることなかれ。

爾時衆中有盲龍女。口中臙爛滿諸雜蟲。狀如屎尿。乃至穢惡。猶若婦人根中不淨。臊歎難看。種種噬食膿血。流出一切身分。常有蚊虻諸惡毒蠅之所咬食。身體臭處。難可見聞。爾時世尊。以大悲心。見彼龍婦眼盲困苦。如是問言。妹何緣故得此惡身。於過去世。曾爲何業。龍婦答言。世尊。我今此身。衆苦逼迫。無暫時停。設復欲言。而不能說。我念過去三十六億。於百千年。惡龍中受如是苦。乃至日夜刹那不停。爲我往昔九十一劫。於毗婆尸佛法中。作比丘尼。思念欲事。過於醉人。雖復出家。不能如法。於伽藍內。敷施牀褥數數。犯於非梵行事。以快欲心。生大樂受。或貪求佗物。多受信

施以如是故。於九十一劫常不得受天人之身。恒三惡道。受諸燒煮。佛又問言。若如是。此中劫盡。妹何處生。龍婦答言。我以過去業力因緣。生餘世界。彼劫盡時。惡業風吹。還來生此。時彼龍婦說此語已。作如是言。大悲世尊。願救濟我。願救濟我。爾時世尊以手掬水。告龍女言。此水名爲眞陀留脂藥和。我今誠實發言語汝。我於往昔爲救鴿故。棄捨身命。終不疑念起慳惜心。此言若實。令汝惡患悉皆除瘥。時佛世尊以口含水。灑彼盲龍婦女之身。一切惡患臭處皆瘥。既得瘥已。作如是說言。我今於佛乞受三歸。是時世尊卽爲龍女授三歸依。この龍女むかしは毗婆尸佛の法のなかに比丘尼となれり。禁戒を破すといふとも佛法の通塞を見聞すへし。いまはまのあたり釋迦牟尼佛にあひたてまつりて。三歸を乞受す。ほとけより三歸をうけたてまつる。厚殖善根といふへし。見佛の功德かならず三歸によれり。われら盲龍にあらず。畜身にあらされとも。如來をみたてまつらす。ほとけにしたかひたてまつりて。三歸をうけす。見佛はるかなり。はちつへし。世尊みつから三歸をさ

つけまします。しるへし三歸の功德。それ甚深無量なりといふこと。天帝釋の野干を拜して三歸をうけし。みな三歸の功德の甚深なるによりてなり。

佛在迦毗羅衛尼拘陀林。時釋摩男來至佛所。作如是言。云何名爲優婆塞也。佛卽爲說。若有善男子。善女人。諸根完具。受三歸依。是卽名爲優婆塞也。釋摩男言。世尊。云何名爲一分優婆塞。佛言。摩男。若受三歸。及受一戒。是名一分優婆塞。佛弟子となること。かならず三歸による。いづれの戒をうくるも。かならず三歸をうけて。そののち諸戒をうくるなり。しかあれは。すなはち三歸によりて得戒あるなり。

法句經云。昔有天子。自知命終。生於驢中。愁憂不已。曰。救苦厄者。唯佛世尊。便至佛所。稽首伏地。歸依於佛。未起之間。其命便終。生於驢胎。母驢鞭斷。破陶家坏器。器主打之。遂傷其胎。還入天子身中。佛言。殞命之際。歸依三寶。罪對已畢。天帝聞之。得初果。おほよそ世間の苦厄をすくふこと。佛世尊にはしかず。このゆゑに天帝いそぎ世尊のみもとに詣す。

伏地のあひたに命終し。驢胎に生ず。歸佛の功德により。驢母の鞭やふれて。陶家の坏器を踏破す。器主これをうつ。驢母の身いたみて。託胎の驢やふれぬ。すなはち天帝の身にかへりいる。佛説をききて。初果をうる。歸依三寶の功德力なり。しかあればすなはち世間の苦厄すみやかにはなれて。無上菩提を證得せしむること。かならず歸依三寶のちからなるへし。おほよそ三歸のちから。三惡道をはなるるのみにあらず。天帝釋の身に還入す。天上の果報をうるのみにあらず。須陀洹の聖者となるまことに三寶の功德海。無量無邊にましますなり。世尊在世は。人天この慶幸あり。いま如來滅後後五百歳のとき。人天いかかせん。しかあれとも。如來形像舍利等。なほ世間に現住しますます。これに歸依したてまつるに。またかみのことくの功德をうるなり。

未曾有經曰。佛言。億念過去無數劫時。毗摩大國徙陀山中。有一野干。而爲師子所逐。欲食奔走墮井。不能得出。經於三日。開心分死。而說偈言。禍

一本の欲下野の食に怖り四字有

哉。今日苦所逼。便當沒命於丘井。一切萬物皆無常。恨不以身餽師子。南無歸依十方佛。表知我心淨無已。時天帝釋聞佛名。肅然毛豎。念古佛。自惟孤露無導師。耽著五欲。自沈沒。即與諸天八萬衆。飛下詣井。欲問詰。乃見野干在井底。兩手攀土。不得出。天帝復自思念言。聖人應念無方術。我今雖見野干形。斯必菩薩非凡器。仁者向說非凡言。願爲諸天說法要。於時野干仰答曰。汝爲天帝無教訓。法師在下自處上。都不修敬。問法要。法水清淨能濟人。云何欲得自貢高。天帝聞是大慚愧。給侍諸天愕然笑。天王降趾大無利。天帝即時告諸天。慎勿以此懷驚怖。是我頑蔽德不稱。必當因是聞法要。即爲垂下天寶衣。接收野干出於上。諸天爲說甘露食。野干得食生活望。非意禍中致斯福。心懷踴躍慶無量。野干爲天帝及諸天廣說法要。これを天帝拜畜爲師の因縁と稱す。あきらかにしりぬ。佛名法名僧名のききかたきこと。天帝の野干を師とせし。その證なるへし。いまわれら宿善のたすくるによりて。如來の遺法にあふたてまつり。晝夜に三寶の寶號をききたてまつること。時とともにし

て不退なり。これすなはち法要なるへし。天魔波旬。なほ三寶に歸依したてまつりて患難をまぬかる。いかにいはんや餘者の。三寶の功德におきて。積功累徳せらん。はかりしらさらめやは。おほよそ佛子行道。かならずまつ十方の三寶を敬禮したてまつり。十方の三寶を勸請したてまつりて。そのみまへに焼香散華して。まさしに諸行を修するなり。これすなはち古先の勝躡なり。佛祖の古儀なり。もし歸依三寶の儀。いまたかつておこなはざるは。これ外道の法なりとするへし。または天魔の法ならんとするへし。佛佛祖祖の法は。かならずそのはしめに歸依三寶の儀軌あるなり。

正法眼藏歸依三寶

建長七年乙卯夏安居日。以先師之御草本書寫畢。未及中書清書等。定御再治之時有添削歟。於今不可叶其儀。仍御草如此云。

正法眼藏生死

生死のなかに佛あれば。生死なし。またいはく。生死のなかに佛なければ。生死にまとはす。ところは夾山定山といはれし。ふたりの禪師のことはなり。得道の人のことはなれは。さためてむなしくまうけし。生死をはなれんとおもはむ人。まさしにこのむねをあきらむへし。もし人生死のほかにほとけをもとむれば。なかえをきたにして。越にむかひ。おもてをみなみにして。北斗をみんとするか。ことし。いよいよ生死の因をあつめて。さらに解脱のみちをうしなへり。たた生死すなはち涅槃と。ころえて。生死としていとふへきもなく。涅槃としてねかふへきもなし。このとき。はしめて生死をはなる分あり。生より死にうつるところうるは。これあやまりなり。生はひとときのくらゐにて。すてにさきありのちあり。かるかゆへに佛法のなかには。生すなはち不生といふ。滅もひとときのくらゐにて。またさきありのちあり。これによりて滅すなはち不滅といふ。生といふ

ときには生よりほかにものなく。滅といふときは滅のほかにものなし。かるかゆへに生きたらはたたこれ生。滅きたらはこれ滅にむかひて。つかふへしといふことなかれ。ねかふことなかれ。この生死は。すなはち佛の御いのちなり。これをいとひすてんとすれば。すなはち佛の御いのちをうしなはんとするなり。これにととまりて。生死に著すれば。これも佛の御いのちをうしなふなり。佛のありさまをととむるなり。いとふことなく。したふことなき。このときはしめて佛のところにいる。たたし心をもてはかることなかれ。ことはをもていふことなかれ。たたわか身をも心をも。はなちわすれて。佛のいへになけいれて。佛のかたよりおこなはれて。これにしたかひもてゆくとき。ちからをもいれす。ころをも。つひやさすして。生死をはなれ佛となる。たれの人か。ころにととこほるへき。佛となるにいとやすきみちあり。もろもろの悪をつくらす。生死に著するころなく。一切衆生のために。あはれみふかくして。かみをうやまひし。

もをあはれみ。よろつをいとふころなく。ねかふころなく。て。心におもふことなく。うれふることなき。これを佛となつく。またほかにたつぬることなかれ。

正法眼藏生死

年號不記

正法眼藏深信因果

百丈大智禪師懷海和尚。凡參次有一老人。常隨衆聽法。衆人退。老人亦退。忽一日不退。師遂問。而前立者復是何人。老人曰。某甲是非人也。於過去迦葉佛時。曾住此山。因學人問。大修行底人還落因果也無。某甲對曰。不落因果。後五百生墮野狐身。今請和尚代一轉語。貴脫野狐身。遂問曰。大修行底人還落因果也無。師曰。不昧因果。老人於言下大悟。作禮曰。某甲已脫野狐身。住在山後。敢告和尚。乞依亡僧事例。師令維那白椎告衆曰。食後送亡僧。大衆言議。一衆皆安。涅槃堂又無病人。何故如是。食後只見師領衆。至山後巖下。以杖指出一死野狐。乃依法火葬。師至晚上堂。舉前因緣。黃檗便問。古人錯祇對一轉語。墮五百生野狐身。轉轉不錯合作箇什麼。師曰。近前來與你道。檗遂近前與師一掌。師拍手笑曰。將謂胡鬚赤。更有赤鬚胡。この一段の因縁。天聖廣燈錄にありしかあるに參學のともから因果の道理をあきらめず。いたつらに撥無因果のあやまりあり。あはれむへし。澆風一扇して。祖道陵替せり。不落因果は。

まさしくこれ撥無因果なり。これによりて惡趣に墮す。不昧因果は。あきらかにこれ深信因果なり。これによりてきくもの惡趣を脱す。あやしむへきにあらず。うたかふへきにあらず。近代參禪學道と稱するともから。おほく因果を撥無せり。なにによりてか因果を撥無せりとする。いはゆる不落と不昧と一等にしてことならずとおもへり。これによりて因果を撥無せりとするなり。

第十九祖鳩摩羅多尊者曰。且善惡之報有三時焉。凡人但見仁天暴壽逆吉義凶。便謂亡因果。虛罪福。殊不知影響相隨。毫釐靡忒。縱經百千万劫。亦不磨滅。あきらかにしりぬ。曩祖いまた因果を撥無せずといふことを。いまの晩進。いまた祖宗の慈誨をあきらめざるは。稽古のおろそかなるなり。稽古おろそかにして。みたりに入天の善知識と自稱するは。人天の大賊なり。學者の怨家なり。なんち前後のともから。亡因果のおもむきをもて。後學晩進のためにかたることなかれ。これは邪説なり。さらに佛祖の法にあらず。なんたちか疎學により

狐狼
に一作
る本

てこの邪見に墮せり。いま神丹國の衲僧等ままいはく。われらか人身をうけて佛法にあふ。一生二生のことなほしらす。前百丈の野狐となれる。よく五百生をしれり。ばかりしりぬ業報の墜墮にあらし。金鎖玄關留不住。行於異類且輪廻なるへし。大善知識とあるともからの見解かくのことし。この見解は佛祖の屋裡におきかたきなり。あるひは人あるひは狐あるひは餘趣のなかに生得にしはらく宿通をえたるともからあり。しかあれとも明了の種子にあらず。惡業の所感なり。この道理世尊ひろく人天のために演説します。これをしらすは疎學のいたりなり。あはれむへし。たとひ一千生一萬生をしるとも。かならずしも佛法なるへからず。外道すてに八万劫をしる。いまた佛法とせず。わづかに五百生をしらん。いくはくの能にあらず。近代宋朝の參禪のともから。もともくらきところは。たた不落因果を邪見の説としらするにあり。あはれむへし。如來の正法の流通するところ。祖祖正傳するにあひなから。撥無因果の邪黨

とならん。參禪のともから。まさにいそきて因果の道理をあきらむへし。いま百丈の不昧因果の道理は。因果にくらからずとなり。しかあれは修因感果のむねあきらかなり。佛佛祖祖の道なるへし。おほよそ佛法いまたあきらめさらんとき。みたり人天のために説法することなかれ。

龍樹祖師云。如外道人。破世間因果。則無今世後世。破出世因果。則無三寶四諦四沙門果。あきらかにしるへし。世間出世の因果を破するは。外道なるへし。今世なしといふは。かたちはこのところにあれとも。性はひさしくさとりに歸せり。性すなはち心なり。心は身とひとしからざるゆゑに。かくのことく解する。すなはち外道なり。あるひはいはく。人死するときかならず性海に歸す。佛法を修習せされとも。自然に覺海に歸すれば。さらに生死の輪轉なし。このゆゑに後世なしといふ。これ斷見の外道なり。かたちたとひ比丘に相似なりとも。かくのことく邪解あらんともから。さらに佛弟子にあらず。ま

さしくこれ外道なり。おほよそ因果を撥無するより。今世後世なしとはあやまるなり。因果を撥無することは眞の善知識に參學せざるによりてなり。眞の善知識に久學するかときは。撥無因果等の邪解あるへからず。龍樹祖師の慈誨。ふかく信仰したてまつり。頂戴したてまつるへし。

永嘉眞覺大師玄覺和尚は。曹谿の上足なり。もとはこれ天台の法華を習學せり。左谿玄朗大師と同室なり。涅槃經を披閱せるところに。金光その室にみつ。なかく無生のさとりをえたり。すすみて曹谿に詣し。證をもて六祖にまうす。六祖つひに印可す。のちに證道歌をつくるにいはく。豁達空撥因果。莽莽蕩蕩招殃過。あきらかにしるへし。撥無因果は。招殃過なるへし。往代は。古徳ともに因果をあきらめたり。近世には。晚進みな因果にまよへり。今世なりといふとも菩提心いさきよくして。佛法のために佛法を習學せんともからは。古徳のことく因果をあきらむべきなり。因なし果なしといふは。すなはち

これ外道なり。

宏智古佛かみの因果を頌古するにいはく。一尺水一丈波。五百生前不奈何。不落不味商量也。依然撞入葛藤窠。阿呵呵。會也麼。若是汝洒洒落落。不妨我哆哆和和。神歌社舞自成曲。拍手其間唱哩囉。いま不落不味商量也。依然撞入葛藤窠の句。すなはち不落と不味とおなしかるへしといふなり。おほよそこの因果その理いまたつくさず。ゆゑいかなとなれば。脱野狐身は。いま現前せりといへとも。野狐身をまぬかれてのち。すなはち人間に生すといはす。天上に生すといはす。おほよそ餘趣に生すといはす。人のうたかふところなり。脱野狐身のすなはち善趣にうまるへくは。天上人間にうまるへし。惡趣にうまるへくは。四惡趣等にうまるへきなり。脱野狐身のち。むなしく生處なかるへからず。もし衆生死して。性海に歸し。大我に歸すといふは。ともにこれ外道の見なり。

夾山圓悟禪師克勤和尚頌古いはく。魚行水濁。鳥飛毛落。至鑑難逃。大

虛寥廓。一往迢迢。五百生只緣因果大修行。疾雷破山風震海。百煉精金色不改。この頌なほ撥無因果のおもむきあり。さらに常見のおもむきあり。

杭州徑山大慧禪師宗杲和尚頌にいはく。不落不昧。石頭土塊。陌路相逢。銀山粉碎。拍手呵呵笑一場。明州有箇慙布袋。これらをいまの宋朝のともから。作家の祖師とおもへり。しかあれとも宋杲か見解。いまた佛法の施權のむねにおよはす。ややもすれば自然見解のおもむきあり。おほよそこの因縁に。頌古拈古のともから。三十餘人あり。一人としても不落因果。これ撥無因果なり。とうたかふものなし。あはれむへしこのともから因果をあきらめす。いたつらに紛紜のなかに一生をむなしくせり。佛法參學には。第一因果をあきらむるなり。因果を撥無するかときは。おそらくは猛利の邪見をおこして。斷善根とならんことを。おほよそ因果の道理。歴然としてわたくしなし。造惡のものは墮し。修善のものはのほる。毫釐もたかはさるな

りもし因果亡し。むなしからんか。ことときは諸佛の出世あるへからす。祖師の西來あるへからす。おほよそ衆生の見佛聞法あるへからさるなり。因果の道理は。孔子老子等のあきらむるところにあらず。たた佛佛祖祖あきらめつたへましますところなり。澆季の學者薄福にして。正法にあはず。正法をきかず。このゆゑに因果をあきらめざるなり。撥無因果すれば。このとかによりて。莽莽蕩蕩として。殃過をうくるなり。撥無因果のほかに。餘惡いまたつくらすといふとも。まつこの見毒は。なはたしきなり。しかあれは。すなはち參學のともから。菩提心をさきとして。佛祖の洪恩を報すへくは。すみやかに諸因諸果をあきらむへし。

正法眼藏深信因果

建長七年乙卯夏安居日以御艸案書寫之未及中書清書定可有再治事也

懷奘

正法眼藏道心

佛道をもとむるにはまつ道心をさきとすへし。道心のありやうし
 る人まれなり。あきらかにしれらん人にとふへし。よの人は道心あ
 りといへともまことには道心なき人あり。まことに道心ありて。人
 にしられざる人あり。かくのことくありなし。しりかたし。おほかた
 おろかにあしき人のことはを信せず。きかざるなり。またわかこ
 ろをさきとせされ。ほとけのとかせたまひたるのりをさきとすへ
 し。よくよく道心あるへきやうをよる。ひる。つねにこころにかけて。
 このよにいかてかまことの菩提あらましとねかひいのるへし。よ
 のすゑにはまことある道心者おほかたなし。しかあれともしはら
 く心を無常にかけて。よのはかなく。人のいのちのあやうきことを
 わすれざるへし。われはよのはかなきことをおもふとしらざるへ
 し。あひかまえて法をおもくして。わか身わかいのちをかるくすへ
 し。法のためには身もいのちもをしまさるへし。つきにはふかく佛

法僧三寶をうやまひたてまつるへし。生をかへ身をかへても。三寶
 を供養し。うやまひたてまつらんことをねかふへし。ねても。さめて
 も。三寶の功德をおもひたてまつるへし。ねても。さめても。三寶をと
 なへたてまつるへし。たとひこの生をすてて。いまたのちの生にう
 まれさらんそのあひた。中有といふことあり。そのいのち七日なる
 そのあひたも。つねにこゑもやます三寶をとなへたてまつらんと
 おもふへし。七日をへぬれば。中有にて死して。また中有の身をうけ
 て。七日あり。いかにひさしといへとも。七日をは。すきす。このとき。な
 にことをみ。きくも。さはりなきこと。天眼のことし。かからんとき。心
 をはけまして。三寶をとなへたてまつり。南無歸依佛。南無歸依法。南
 無歸依僧と。となへたてまつらんこと。わすれす。ひまなく。となへた
 てまつるへし。すでに中有をすきて。父母のほとりにちかつかんと
 きも。あひかまひて。正智ありて。託胎せん。處胎藏にありても。三寶を
 となへたてまつるへし。うまれおちんときも。となへたてまつらん

こと。おこたらさらん。六根にへて三寶を供養したてまつり。となへたてまつり。歸依したてまつらんと。ふかくねかふへし。またこの生のはるときは。ふたつのまなこたちまちにくらくなるへし。そのときを。すてに生のをはりとしりて。はけみて南無歸依佛となへたてまつるへし。このとき。十方の諸佛。あはれみをたれさせたまふ。縁ありて惡趣におもむくへきつみも。轉して天上に生まれ。佛前にうまれて。佛をおかみたてまつり。佛のとかせたまふのりをきくなり。眼のまへに。やみのきたらんよりのちはたゆますはけみて三歸依をとなへたてまつること。中有までも後生まても。おこたるへからす。かくのことくして生生世世をつくして。となへたてまつるへし。佛果菩提にいたらんまでも。おこたらさるへし。これ諸佛菩薩のおこなはせたまふみちなり。これをふかく法をさるともいふ。佛道の身にそなはるともいふなり。さらにことおもひをましへさらんとねかふへし。また一生のうちには佛をつくりたてまつらんとい

となむへし。つくりたてまつりては三種の供養したてまつるへし。三種とは。艸座。石蜜漿。然燈なり。これを供養したてまつるへし。またこの生のうちには。法華經をつくりたてまつるへし。かきもし。摺寫もしたてまつりて。たもちたてまつるへし。つねにはいたたき禮拜したてまつり。華香。みあかし。飲食。衣服も。まゐらすへし。つねにいたたきをきよくして。いたたまゐらすへし。またつねに袈裟をかけて坐禪すへし。袈裟は第三生に得道する先蹤あり。すてに三世の諸佛の衣なり。功德はかるへからす。坐禪は三界の法にあらず。佛祖の法なり。

正法眼藏道心

年月不記

正法眼藏受戒

禪苑清規云。三世諸佛。皆曰出家成道。歷代祖師。傳佛心印。盡是沙門。蓋以嚴淨毗尼。方能洪範三界。然則參禪問道。戒律爲先。若不離過防非。何以成佛作祖。受戒之法。應備三衣鉢具。并新淨衣物。如無新衣。浣洗令淨。入壇受戒。不得借他衣鉢。一心專注。慎勿異緣。像佛形儀。具佛戒律。得佛受用。此非小事。豈可輕心。若借他衣鉢。雖登壇受戒。并不得戒。若不會受。一生爲無戒之人。濫廁空門。虛消信施。初心入道。法律未諳。師匠不望信言。陷入於此。今茲苦口。敢望銘心。既受聲聞戒。應受菩薩戒。此入法之漸也。西天東地。佛祖相傳。しきたれるところ。かならず入法の最初に受戒あり。戒をうけされは。いまた諸佛の弟子にあらず。祖師の兒孫にあらず。ならざるなり。離過防非を參禪問道とせるか故なり。戒律爲先の言。すてにまさしく正法眼藏なり。成佛作祖かならず。正法眼藏を傳持するによりて。正法眼藏を正傳する祖師。かならず佛戒を受持するなり。佛戒を受持せざる佛祖あるへからざるなり。あるひは如來

一以本初
心以下
二以十
字なし

るすりさ
に一なる
作本な

る禪學
に一作
本

にしたかひてこれを受持す。みなこれ命脈稟受せる處なり。いま佛佛祖正傳するところの佛戒。只嵩嶽曇祖まさしく傳來し。震旦五傳して曹谿高祖にいたれり。青原南嶽等の正傳。いまにつたはれりといへとも。杜撰の長老等かつてしらするもあり。もともあはれむへし。いはゆる應受菩薩戒。此入法之漸也。これすなはち參學のしるへきところなり。その應受菩薩戒の儀。ひさしく佛祖の堂奥に參學するものかならず。正傳す。疎怠のともからのうるところにあらず。その儀はかならず祖師を燒香禮拜し。應受菩薩戒を求請するなり。すてに聽許せられて。沐浴清淨にして。新淨の衣服を着す。あるひは衣服を浣洗して。華を散し。香をたき。禮拜恭敬して。その身に着す。あまねく形像を禮拜し。三寶を禮拜し。尊宿を禮拜し。諸障を除去し。身心清淨なることをうへし。その儀ひさしく佛祖の堂奥に正傳せり。そののち道場にして和尙阿闍梨。まさしに受者をおしへて禮拜し。長跪せしめて合掌し。この語をなさしむ。

師一作本
る飯師

歸依佛。歸依法。歸依僧。歸依佛陀兩足尊。歸依達磨離欲尊。歸依僧伽衆中尊。歸依佛竟。歸依法竟。歸依僧竟。(三說)如來至眞無上正等覺是我大師。我今歸依。從今已後。更不歸依邪魔外道。慈愍故。慈愍故。(三遍)

善男子。既捨邪歸正。戒已周圓。應受三聚清淨戒。

第一。攝律儀戒。汝從今身至佛身。此戒能持否。答云。能持。(三問三答)

第二。攝善法戒。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

第三。饒益衆生戒。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

上來三聚清淨戒。一一不得犯。汝從今身至佛身。能持否。答曰。能持。(三問三答)

問三答。是事如是持。(受者禮三拜長跪合掌)

善男子。汝既受三聚清淨戒。應受十戒。是乃諸佛菩薩清淨大戒也。

第一。不殺生。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

第二。不偷盜。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

第三。不媾欲。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

第四。不妄語。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

第五。不酤酒。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

第六。不說在家出家菩薩罪過。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

(三問三答)

第七。不自讚毀他。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

第八。不慳法財。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

第九。不瞋恚。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

第十。不謗三寶。汝從今身至佛身。此戒能持否。答曰。能持。(三問三答)

上來十戒。一一不得犯。汝從今身至佛身。能持否。答曰。能持。(三問三答)

是事如是持。(受者禮三拜)上來三歸三聚淨戒。十重禁戒。是諸佛之所受

持。汝從今身至佛身。此十六支戒。如是持。(受者禮三拜。次作處世界梵訖

曰)歸依佛。歸依法。歸依僧。(次受者出道場)

この受戒の儀。かならず佛祖正傳せり。丹霞天然。藥山の高沙彌等。か

なしく受持しきたれり。比丘戒をうけざる祖師あれとも。此佛祖正傳菩薩戒をうけざる祖師いまたあらず。かならず受持するなり。

正法眼藏受戒
年號不記

自高而大
論止に作

大論下驚
の此人に
惟此字
有る三
至はり
由は作

正法眼藏四禪比丘

第十四祖龍樹祖師言。佛弟子中有一比丘。得第四禪。生增上慢。謂得四果。初得初禪。謂得於須陀洹果。得第二禪時。謂是斯陀含果。得第三禪時。謂是阿那含果。得第四禪時。謂是阿羅漢。恃是自高。不復求進。欲命盡時。見有四禪中陰相來。便生邪見。謂無涅槃。佛為欺我。惡邪見故。失四禪中陰。便見阿鼻泥犁中陰相。命終即生阿鼻泥犁中。諸比丘問佛。曰。阿蘭若比丘。命終生何處。佛言。是人生阿鼻泥犁中。諸比丘大驚。坐禪持戒。便至爾耶。佛如前答言。彼皆因增上慢。得四禪時。謂得四果。臨命終時。見四禪中陰相。便生邪見。謂無涅槃。我是羅漢。今還復生。佛為虛誑。是時即見阿鼻泥犁中陰相。命終即生阿鼻泥犁中。是時佛說偈言。多聞持戒禪未得。漏盡法。雖有此功德。此事難可信。墮獄由謗佛。非關第四禪。この比丘を稱して。四禪比丘といふ。または無聞比丘と稱す。四禪をえたるを四果と僻計せることをいましめ。また謗佛の邪見をいましむ。人天大會みなしれり。如來在世より。今日にいたるまで。西天東地。ともに

是にあらざるを是と執せるをいましむとして。四禪をえて四果とおもふかことしとあさける。この比丘の不是。しはらく略擧するに三種あり。第一には。みつから四禪と四果とを分別するにおよはざる無聞の身なから。いたつらに師をはなれて。むなしく阿蘭若に獨處す。さいはひにこれ如來在世なり。つねに佛所に詣して。常恒に見佛聞法せば。かくのことくあやまりあるへからず。しかあるに阿蘭若に獨處して。佛所に詣せず。つひに見佛聞法せざるによりて。かくのことし。たとひ佛所に詣せずといふとも。諸大阿羅漢所にいたりて。教訓をうくへし。いたつらに獨處する増上慢のあやまりなり。第二には。初禪をえて初果とおもひ。二禪をえて第二果とおもひ。三禪をえて第三果とおもひ。四禪をえて第四果とおもふ。第二のあやまりなり。初二三禪の相と。初二三果の相と。比類におよはす。たとることあらんや。これ無聞のとかによれり。師につかへす。くらきによれるとかなり。

秘本も
下無のト秘
下無二女本
下無望く女本
下無心本
下有便即字
有下無のト秘
下無二女本
下無望く女本
下無心本
下有便即字

優婆塞多弟子中。有一比丘。信心出家。獲得四禪。謂爲四果。惣多方便令往。陀處。於路化作群賊。復化作五百賈客。賊劫賈客殺害狼藉。比丘見生悼。即便自念。我非羅漢。應是第三果。賈客亡後。有長者女。語比丘言。唯願大德。與我共去。比丘答言。佛不許我與女人行。女言。我望大德而隨。其後比丘。憐愍。相望而行。尊者次復變作大河。女人言。大德。可共我度。比丘在下流。女在上流。女便墮水。自言。大德。濟我。爾時比丘。手接而出。生細滑想。起愛欲心。即自知非阿那含。於此女人。極生愛著。將向屏處。欲共交通。方見是師。生大慚愧。低頭而立。尊者語言。汝曾自謂是阿羅漢。云何欲爲如此惡事。將至僧中。教其懺悔。爲說法要。得阿羅漢。この比丘はしめ生見のあやまりあれとも。殺害の狼藉をみるにおそれを生ず。ときにわれ羅漢にあらずとおもふ。なほ第三果なるへしとおもふ。あやまりあり。のちに細滑の想によりて。愛欲の心を生ずるに。阿那含にあらずとし。さらに謗佛のおもひを生せず。謗法のおもひなし。聖教にそむくおもひにあらず。四禪比丘にはひとしからず。この比丘は。

秘本
知無
字二
故

聖教を習學せるちからあるによりて。みつから阿羅漢にあらず阿
那含にあらずとしるなり。いまの無聞のともからは阿羅漢はいか
なりともしらす。佛はいかなりともしらす。かゆゑに。みつから阿
羅漢にあらず。佛にあらずともしらす。みたりにわれは佛なりとの
みおもひいふは。おほいなるあやまりなり。ふかきとかなるへし。學
者まつすへからく佛はいかなるへしとならふへきなり。
古徳曰。故知習聖教者。薄知次位。縱生逾濫。亦易開解。まことなるか
な古徳の語。たとひ生見のあやまりありとも。すこしきも佛法を習
學せらんとも。からはみつからにも欺誑せられし。佗人にも欺誑せ
られし。

會聞有人自謂成佛。待天不曉。謂爲魔障。曉已不見。梵王請說法。自知非
佛。自謂是阿羅漢。又被佗人罵之。心生異念。自知非是阿羅漢。仍謂是第
三果也。又見女人起欲想。知非聖人。此亦良由知教相故。乃如是也。そ
れ佛法をしれるは。かくのことくみつからか非を覺知し。はやくあ

やまりをなけすつ。しらするともからは。一生むなしく愚蒙のなか
にあり。生より生をうくるもまたかくのことくなるへし。この優婆
塞多の弟子は。四禪をえて四果とおもふといへとも。さらに我非羅
漢の智あり。無聞比丘も。臨命終のとき。四禪の中陰みゆることあら
んに。我非羅漢としらは。謗佛の罪あるへからす。いはんや四禪をえ
てのちひさし。なんそ四果にあらずとかへりみしらすらん。すてに
四果にあらずとしらは。なんそあらためさらん。いたづらに僻計に
ととこほり。むなしく邪見にしつめり。第三には。命終のときおほき
なるあやまりあり。そのとかふかくして。つひに阿鼻地獄におちぬ
るなり。たとひなんち一生のあひた。四禪を四果とおもひきたれり
とも。臨命終のとき。四禪の中陰みゆることあらは。一生のあやまり
を懺悔して。四果にはあらざりきとおもふへし。いかてか佛われを
欺誑して。涅槃なきに涅槃ありと施設せさせたまふとおもふへき。
これ無聞のとかなり。このつみすてに謗佛なり。これによりて阿鼻

ひさし
ひくと
ひと作
るり本

一本
下作
り有し

の中陰現して命終して阿鼻地獄におちぬたとひ四果の聖者なりともいかにか如來におよはん舍利弗はひさしくこれ四果の聖者なり三千大千世界所有の智慧をあつめて如來をのそきたてまつりてほかを一分とし舍利弗の智慧を十六分にせる一分と三千大千世界所有の智慧とを格量するに舍利弗の十六分の一分におよはざるなりしかあれとも如來未會説の法をときましたすをききて前後の佛説ことにしてわれを欺誑しますとおもはず波旬無此事とほめたてまつる如來は福増をわたし舍利弗は福増をわたし四果と佛果とはるかにことなることかくのことしたとひ舍利弗およひもろもろの弟子のことくならん十方界にみちみてらんともに佛智を測量せんことうへからす孔老にかくのことくの功德いまたなし佛法を習學せんものたれか孔老を測度せざらん孔老を習學するもの佛法を測量することいまたなしいま大宋國のともからおほく孔老と佛道と一致の道理をたつ僻見もとも

秘本
字無し

ふかきものなりしもにまさしに廣説すへし四禪比丘みつからか僻見をまこととして如來の欺誑しますとおもふなかく佛道を違背したてまつるなり愚癡のはなはたしき六師等にひとしかるへし

古徳曰大師在世尙有僻計生見之人況滅度後無師不得禪者いま大師とは佛世尊なりまことに世尊在世出家受具せるなほ無聞によりては僻計生見のあやまりのかれかたしいはんや如來後五百歳邊地下賤の時處あやまりなからんや四禪を發せるものなほかくのことしいはんや四禪を發せるにおよはずいたつらに貪名愛利にしつめらんもの官途世路をむさほるともから不足言なるへしいま大宋國に寡聞愚鈍のともからおほしかれらはいはく佛法と孔子老子の法と一致にして異轍にあらず

大宋嘉泰中有僧正受撰進普燈錄三十卷曰臣聞孤山智圓之言曰吾道如鼎也三教如足足一虧而鼎覆焉臣嘗慕其人稽其說乃知儒之爲

秘本
の足下
に作る

教。其要在誠意。道之爲教。其要在虛心。釋之爲教。其要在見性。誠意也。虛心也。見性也。異名同體。究厥攸歸。無適而不與此道會。云云。かくのこ
とく僻計生見のともからのみおほし。智圓正受のみにあらず。こ
のともからは四禪をえて四果とおもはんよりもそのあやまりふ
かし。謗佛謗法謗僧なるへし。すてに撥無解脱なり。撥無三世なり。撥
無因果なり。莽莽蕩蕩招殃禍うたかひなし。三寶四諦四沙門果なし
とおもひしともからにひとし。佛法いまた其要見性にあらず。七佛。
西天二十八祖。いつれのところにか佛法た見性のみなりとある。
六祖壇經に見性の言あり。かの書これ僞書なり。付法藏の書にあ
す。曹谿の言句にあらず。佛祖の兒孫。またく依用せざる書なり。正受。
智圓。いまた佛法の一隅をしらざるによりて。一鼎三足の邪計をな
す。

古徳曰。老子莊子。尙自未識。小乘能著所著。能破所破。況大乘中。若著若
破。是故不與佛法少同。然者世間愚者。迷於名相。濫禪者惑於正理。欲將

道德逍遙之名。齊於佛法解脱之說。豈可得乎。むかしより名相にま
よふもの。正理をしらさるともから。佛法をもて。莊子老子にひとし
むるなり。いささかも佛法の稽古あるともからは。むかしより。莊子
老子をおもくする。一人なし。

清淨法行經曰。月光菩薩。彼稱顏回。光淨菩薩。彼稱仲尼。迦葉菩薩。彼稱
老子。云云。むかしよりこの經の說を擧して。孔子老子等も菩薩な
れは。その說ひそかに佛說におなしかるへし。いとまた佛のつか
ひならん。その說おのつから佛說ならんといふ。この說みな非なり。
古徳曰。準諸目錄。皆推此經。以爲疑僞。云云。いまこの說によらば。いよ
いよ佛法と孔老とことなるへし。すてにこれ菩薩なり。佛果にひと
しかるへからず。また和光應迹の功德は。ひとり三世諸佛菩薩の法
なり。俗塵凡夫の所能にあらず。實業の凡夫。いかてか應迹に自在あ
らん。孔子いまた應迹の說なし。いはんや孔老は先因をしらす。當果
をとかず。わつかに一世の忠孝をもて。きみにつかへ家ををさむる

術をむねとするなり。さらに後世の説なし。すてにこれ斷見の流類なるへし。莊老をきらふに小乘なほしらす。いはんや大乘をやといふは。上古の明師なり。三教一致といふは。智圓正受なり。後代澆季愚闇の凡夫なり。なんちなんの勝出あれはか。上古の先徳の所説をさみして。みたり。に佛法と孔老とひとしかるへしといふ。なんたちか所見すへて佛法の通塞を論するにたへす。負笈して明師に參學すへし。智圓正受なんちら大小兩乘すへて。いまたしらするなり。四禪をえて四果とおもひしよりもくらし。かなしむへし。澆風のあふくところ。かくのことくの魔子おほかることを。

古徳曰。如孔丘姫且之語。三皇五帝之書。孝以治家。忠以治國。輔以利民。只是一世之内。不渡過未。未齊佛法之益於三世。豈不謬乎。まことなるかな古徳の語。よく佛法の至理に達せり。世俗の道理にあきらかなり。三皇五帝の語。いまた轉輪聖王のをしへにおよふへからす。梵王帝釋の説にならへ論すへからす。統領するところ所得の果報は。

るかに劣なるへし。輪王梵王帝釋。なほ出家受具の比丘におよはす。いかにいはんや如來にひとしからんや。孔丘姫且の書。また天竺の十八大經におよふへからす。四韋陀の典籍にならへかたし。西天婆羅門教。いまた佛教にひとしからさるなり。なほ小乘聲聞教にひとしからす。あはれむへし。震旦小國邊方にして三教一致の邪説あることを。

第十四祖龍樹菩薩曰。大阿羅漢辟支佛。知八万大劫。諸大菩薩。及知無量劫。孔老等。いまた一世のうちの前後をしらす。一生二生の宿通。あらんや。いかにいはんや。一劫をしらんや。いかにいはんや。百劫千劫をしらんや。いかにいはんや。八萬大劫をしらんや。いかにいはんや。無量劫をしらんや。この無量劫をあきらかにてらししれること。たなこころをみるよりもあきらかなる諸佛菩薩を。孔老等に比類せん。愚闇といふにもたらさるなり。みみをおほふて三教一致の言をきくことなかれ。邪説中最邪説なり。

去一本
世に作

な一本
か本
なる作

莊子曰。貴賤苦樂。是非得失。皆是自然。この見すてに西國の自然見の外道の流類なり。貴賤苦樂是非得失。みなこれ善惡業の感するところなり。滿業引業をしらす。過去來世をあきらめざるかゆ系に。現在にくらし。いかてか佛法にひとしからん。あるかいはく。諸佛如來。ひろく法界を證するゆ系に。微塵法界。みな諸佛の所證なり。しかあれは依正二報ともに如來の所説となりぬるかゆ系に。山河大地。日月星辰。四倒三毒。みな如來の所説なり。山河をみるは。如來をみるなり。三毒四倒。佛法にあらずといふことをなし。微塵をみるは法界をみるにひとし。造次顛沛。みな三菩提なり。これを大解脫といふ。これを單傳直指の祖道となつく。かくのことくいふともから。稻麻竹葦のことく。朝野に徧滿せり。しかあれともこのともから。たれ人の兒孫といふことあきらかならず。すへて佛祖の道をしらするなり。たとひ諸佛の所説となるとも。山河大地。たちまちに凡夫の所見なかるへきにあらず。諸佛の所説となる道理をならはすきかざるなり。な

んち微塵をみるは法界をみるにひとしといふ。たみの王にひとしといはんかことし。またなんそ法界をみて微塵にひとしといはさる。このともからの所見を佛祖の大道とせば。諸佛出世すへからず。祖師出現すへからず。衆生得道すへからざるなり。たとひ生即無生と體達すとも。この道理にあらず。

眞諦三藏云。震旦有二福。一無羅刹。二無外道。このことはまことに西國の外道婆羅門の傳來せるなり。得通の外道なしといふとも。外道の見をおこすともからなかるへきにあらず。羅刹はいまたみえず。外道の流類はなきにあらず。小國邊地のゆ系に。中印度のことくにあらさることは。佛法もわづかに修習すといへとも。印度のことくに證をとれるなし。

古徳曰。今時多有還俗者。畏憚王役。入外道中。偷佛法義。竊解莊老。遂成混雜。迷惑初心。孰正孰邪。是爲發得韋陀法之見。しるへし佛法と莊老といつれか正しいつれか邪をしらす混雜するは。初心のともから

義一本
儀に作

を迷惑する。いまの智圓正受等これなり。たた愚味のはなはたしきのみにあらず。稽古なきのいたり。顯然なり。炳焉なり。近日宋朝の僧徒。ひとりとしても。孔老は佛法におよはずとしれるともからなし。なほ佛祖の兒孫になれるともから。稻麻竹葦のことく。九州の山野にみたりといふとも。孔老のほかに佛法すくれいてたりと曉了せる。一人半人あらず。ひとり先師天童古佛のみ佛法と孔老とひとつにあらずと曉了せり。晝夜に施設せり。經論師また講者の名あれとも。佛法はるかに孔老の邊を勝出せりと曉了せるなし。近代一百年來の講者。おほく參禪學道のことからの儀をまなひ。その解會をぬすまんとす。もともあやまれりといふへし。孔子の書に生知者あり。佛教には生知者なし。佛法には舍利の説あり。孔老舍利の有無をしらす。一にして混雜せんとおもふとも。廣説の通塞つひに不得ならん。論語云。生而知之上。學而知者次。困而學之。又其次也。困而不學。民斯爲下矣。もし生知あらは。無因のとがあり。佛法には無因の説なし。四

禪比丘は。臨命終のとき。たちまちに謗佛のつみに墮す。佛法をもて孔老の教にひとしとおもはん。一生のうちより謗佛のつみふかかへし。學者はやく佛法と孔老と一致なりと邪計する解をなけすつへし。この見たくはへてすてすは。つひに惡趣に墮すへし。學者あきらかにしるへし。孔老は三世の法をしらす。因果の道理をしらす。一洲の安立をしらす。いはんや四洲の安立をしらんや。六天のことなほしらす。いはんや三界九地の法をしらんや。小千界をしらす。中千界をしるへからず。三千大千世界をみることもあらんや。しることあらんや。震旦一國になほ小臣にして。帝位にのほらす。三千大千世界に王たる如來に比すへからず。如來は梵天。帝釋。轉輪聖王等。晝夜に恭敬侍衛し。恒時に説法を請したてまつる。孔老にかくのことく。の徳なし。たたこれ流轉の凡夫なり。いまた出離解脫の道をしらす。いかてか如來のことく諸法實相を究盡することあらん。もしいまた究盡せずは。なによりてか世尊にひとしとせん。孔老内徳なし。

るほ一
るに
作本

外用なし。世尊におよふへからず。三教一致の邪説をはかんや。孔老世界の有邊際無邊際を通達すへからず。廣をみすしらす。大をしらす。みさるのみにあらず。極微色をみす。刹那量をしるへからず。世尊あきらかに極微色をみ刹那量をしらせたまふ。いかにしてか。孔老にひとしめたてまつらん。孔老。莊子。惠子等は。たたこれ凡夫なり。なほ小乗の須陀洹におよふへからず。いかにいはんや。第二第三第四の阿羅漢におよはんや。しかあるを學者くらきによりて。諸佛にひとしむる。迷中又深迷なり。孔老は三世をしらす。多劫をしらすのみにあらず。一念しるへからず。一心しるへからず。なほ日月天に比すへからず。四大王衆天におよふへからざるなり。世尊に比せば。世間。出世間に迷惑するなり。

列傳云。喜爲周大夫善星象。因見異氣而東迎之。果得老子。請著書五千有言。喜欲從。聃求法。聃云。若欲志心求去。當將父母等七人頭來。乃可得去。喜乃從教。七頭皆變豬頭。古德云。然俗典孝儒尙尊木像。老聃設化。令

喜害親。如來教門。大慈爲本。如何老氏逆爲化原。むかしは老聃をもて世尊にひとしむる邪黨あり。いまは孔老ともに世尊にひとししといふ愚侶あり。あはれまさらめやは。孔老なほ轉輪聖王の十善をもて世間を化するにおよふへからず。三皇五帝いかてか。金銀銅鐵諸轉輪王の七寶千子具足してあるひは。四天下を化しあるひは。三千界を領せるにおよはん。孔老はいまたこれにも比すへからず。過現當來の諸佛諸祖。ともに父母師僧三寶に孝順し。病人等を供養するを化原とせり。害親を化原とせる。いまたむかしよりあらさるところなり。しかあればすなはち老聃と佛法とひとつにあらず。父母殺害するは。かならず順次生業にして。泥犁に墮すること必定なり。たとひ老聃みたりに。虛無を談するとも。父母を害せんもの生報をまぬかれざらん。

傳燈錄云。二祖每歎云。孔老之教。禮術風規。莊易之書。未盡妙理。近聞達磨大士。住止少林。至人不遙。當造玄境。いまのともからあきらかに

一本あり下す無し

信すへし。佛法の振旦に正傳せることはたたひとへに二祖參學の
ちからなり。初祖たとひ西來せりとも二祖をえすは佛法つたはれ
さらん。二祖もし佛法をつたへすは東地いまに佛法なからん。おほ
よそ二祖は餘輩に群すへからず。
傳燈錄云。僧神光者。曠達士。久居伊洛。博覽群書。善談玄理。むかし二
祖の群書を博覽するといまの人書卷をみると。はるかにことなる
へし。得法傳衣ののちもむかしわれ孔老之教禮術風規とおもひし
は。あやまりなりとしめすことばなし。しるへし二祖すてに孔老は
佛法におよふことあらずと通達せり。いまの遠孫。なにしてか祖
父に違背して佛法と一致なりといふや。まさにしるへし邪說なり
と。二祖の遠孫にてあらずは。正受等か説たれかもちるん。二祖の兒
孫たるへくは。三教一致といふことなかれ。
如來在世有外道名論力。自謂論議無學等者。其力最大。故曰論力。受五
百梨昌募撰五百明難來難世尊來至佛所而奉問佛云。爲一究竟道爲

大論に知
智に勝
り作る

一本あり上す
このれ有

衆多究竟道。佛言。唯一究竟道。論力云。我等諸師各説有究竟道。以外道
中各自謂是。毀訾佗法。互相是非。故有多道。世尊其時已化鹿頭。成無學
果。在佛邊立。佛問論力。衆多道中誰爲第一。論力云。鹿頭第一也。佛言。其
若第一。云何捨其道。爲我弟子。入我道中。論力見既慚愧。低頭歸依入道。
是時佛説義品偈曰。各各謂究竟。而各自愛著。各是自非佗。是皆非究竟。
是人入論衆。辨明義涅槃。各各相是非。勝負懷憂喜。勝者墮慢坑。負者墮
憂獄。是故有智者。不墮此二法。論力汝當知。我諸弟子法。無虛亦無實。汝
欲何處求。汝欲壞我論。終已無此處。一切知難明。還是自毀壞。いま世
尊の金言それかくのことし。東土愚暗の衆生。みたりに佛教に違背
して佛道とひとしき道ありといふことなかれ。すなはち謗佛謗法
となるへきなり。西天の鹿頭。竝論力。乃至長爪梵志。先尼梵志等は。博
學の人たり。東土にむかしより。いままたなし。孔老さらにおよふへか
らざるなり。これらみなみつからか道をすてて。佛道に歸依す。いま
孔老の俗人をもて。佛法に比類せんは。きかんものもつみあるへし。

いはんや阿羅漢辟支佛もみなつひに菩薩となる。一人としても小
乘にしてをはるものなし。いかてかいたまた佛道にいらさる孔老を
諸佛にひとしといはんや。大邪見なるへし。おほよそ如來世尊はる
かに一切を超越しますこと。すなはち諸佛如來諸大菩薩梵天
帝釋みなともにほめたてまつりしりたてまつれるところなり。西
天二十八祖ともにしれるところなり。おほよそ參學のちからある
ものみなともにしれり。いま澆運の衆生宋朝愚暗のともからの三
教一致の狂言もちゐるへからす。不學のいたりなり。

正法眼藏四禪比丘

建長七年乙卯夏安居日以御草案本書寫畢

懷奘

正法眼藏唯佛與佛

佛法は人のしるへきにはあらず。このゆゑにむかしより凡夫とし
て佛法をさとるなし。二乗として佛法をきはむるなし。ひとり佛に
さとらるるゆゑに唯佛與佛乃能究盡といふ。それをきはめさとる
ときわれなからもかねてよりさとりはかくこそあらめとおも
はるることほなきなり。たとひおほゆれともそのおほゆるにたか
はぬさとりにてなきなり。さとりもおほえしかことくにてもなし。
かくあれはかねておもふその用にたつへきにあらず。さとりぬる
をりはいかにありけるゆゑに。さとりたりとおほえぬなり。これに
てかへりみるへし。さとりよりさきにかくおもひけるは。さとり
の用にあらぬと。さきのさまさまおもふ。おもひのやうにあらさり
けるは。おもひのまことにあしくて。そのちからのなきにてはなし。
こしかたのおもひもさなからさとりにてありけるを。そのをりは。
さかさまにせんとしけるゆゑに。ちからのなきとはおもひもいひ

とこそ
一本と
をこそ
にこそ
作る

もするなり。用にあらずとおほゆることはしるべきところかならずあり。いはゆるちひさくはならしとおそれける。もしさとよりよきのおもひをちからとして。さとりのいてこんはたのもしからぬさとりにてありぬへし。さとよりよきにちからとせずはるかにこえてきたれるゆゑに。さとりとはいひとすちにさとりのちからにのみたすけらる。まといはなきもの。そともしるへし。さとりはなきこと。そともしるへし。無上菩提の人にてあるをり。これをほとけといふ。ほとけの無上菩提にてあるとき。これを無上菩提といふ。この道にあるときの面目しらすらんは。おろかなりぬへし。いはゆるその面目は。不染汚なり。不染汚とは。趣向なく取舍なからんとし。いていとなみ。趣向にあらずらんと。ころつくろひするには。あらぬなり。いかにも趣向せられず。取舍せられぬ。不染汚のあるなり。たとへは人にあふに。面目のいかやうなるとおほえ。又華にも月にも。いまひとつの光色をおもひかさね。又春はたた春なからのころ。秋も

また秋なからの美惡にてのかるべきにあらぬを。われにあらずらんとするには。われなるにてもおもひしるへし。このはるあきのころ。ゑわれならんとするにも。われにあらずらんにてもかへりみるへし。われにつもれるにてもなし。いまもわれにあるおもひにてもなきなり。そのころは。いまの四大五蘊。おのおのわれとすへきにてもあらず。たれとたどるへからず。しかあれは華月のもよほす心のい。また我とすへきにあらぬを。われとおもふ。われにあらぬを。われとおもふも。さもあらはあれ。そむくべきかたのいろも。おもむくべきかたのそめられぬへきもなし。とてらすとき。おのつから道にある行履も。かくれさりける。本來の面目なり。ふるき人のいはく。盡大地これ自己の法身にてあれとも。法身にさへられざるへし。もし法身にさへられぬるには。いささか身を轉せんとするにもかなはず。出身の道あるへし。いかなるかこれ諸人の出身の道と。もしこの出身のみちを。いはさらんものは。法身のいのちも。たちまちにたえて。

なかく苦海にしつみぬへし。かくのことくとはんにかにといは
んか。法身をもいけ。苦海にもしつまさるへきと。このときいふへし
盡大地自己の法身なりと。もしこの道理にてあらん。盡大地自己の
法身といふをりはいはれぬ。またいはれざらんとき。ふつといはぬ
とや。こころうへき。いはぬ古佛のいへることあり。死のなかにいけ
ることあり。いけるなかに死せることあり。死せるかつねに死せる
あり。いけるかつねにいけるあり。これ人のしひてしかあらしむる
にあらず。法のかくのことくなるなり。しかあれは法輪を轉するを
りも。かくのことくのひかりあり。こゑあり。現身度生にもしかあり
としるへし。これを無生の知見とはいふ。現身度生とは。度生現身に
てありけるなり。度にむかひて現をたとらす。現をみるに度をあや
しむことなかるへし。この度に佛法はきはめつくせりとこころう
へし。とくへし。證すへし。現にも身にも度のことくにありけるとき
くなり。とくなり。これも現身度生のしかあらしめけるとなり。この

むねを證しけるに。そ得道のあしたより。涅槃のゆふへにいたるま
て。一字をもとかさりけるともとかるること。はの自在なりける。古
佛いはく。盡大地是眞實人體なり。盡大地是解脱門なり。盡大地是毗
盧一隻眼なり。盡大地是自己法身なり。いはゆるところは眞實とは。
まことの身となり。盡大地をわれらかかりにあらさりけるまこと
しき身にてありけるとはしるへし。ひごろはなにしてかしらさ
りけるととふ人あらは。盡大地是眞實人體といひつること。をわれ
にかへせといふへし。また盡大地是眞實人體とは。かくのことくし
るともいふへし。また盡大地是解脱門とは。いかにもまつはれかか
ふることなきになつくるなり。盡大地のことは。は。ときにもとしに
も。こころにも。こととは。は。にもしたしくして。ひまなく親密なり。かきり
なく。ほとりなきを。盡大地といふへきなり。この解脱門にいらんこ
とをもとめ。いてんことをもとめんに。またうへからさるなり。なに
としてかくのことくなる。發問をかへりみるへし。あらぬところを

なかく苦海にしつみぬへし。かくのことくとはんにいかにといは
んか。法身をもいけ。苦海にもしつまさるへきと。このときいふへし
盡大地自己の法身なりと。もしこの道理にてあらん。盡大地自己の
法身といふをりはいはれぬ。またいはれざらんとき。ふつといはぬ
とや。こころうへき。いはぬ古佛のいへることあり。死のなかにいけ
ることあり。いけるなかに死せることあり。死せるかつねに死せる
あり。いけるかつねにいけるあり。これ人のしひてしかあらしむる
にあらず。法のかくのことくなるなり。しかあれは法輪を轉するを
りも。かくのことくのひかりあり。こゑあり。現身度生にもしかあり
としるへし。これを無生の知見とはいふ。現身度生とは。度生現身に
てありけるなり。度にむかひて現をたとらず。現をみるに度をあや
しむことなかるへし。この度に佛法はきはめつくせりとこころう
へし。とくへし。證すへし。現にも身にも度のことくにありけるとき
くなり。とくなり。これも現身度生のしかあらしめけるとなり。この

むねを證しけるに。そ得道のあしたより。涅槃のゆふへにいたるま
て。一字をもとかさりけるともとかるること。はの自在なりける。古
佛いはく。盡大地是眞實人體なり。盡大地是解脱門なり。盡大地是毗
盧一隻眼なり。盡大地是自己法身なり。いはゆるところは眞實とは。
まことの身となり。盡大地をわれらかかりにあらさりけるまこと
しき身にてありけるとはしるへし。ひごろはなにしてかしらさ
りけるととふ人あらは。盡大地是眞實人體といひつることをわれ
にかへせといふへし。また盡大地是眞實人體とは。かくのことくし
るともいふへし。また盡大地是解脱門とは。いかにまつはれかか
ふることなきになつくるなり。盡大地のこととは。は。ときにもとしに
も。こころにも。こととは。にもしたしくして。ひまなく親密なり。かきり
なく。ほとりなきを。盡大地といふへきなり。この解脱門にいらんこ
とをもとめ。いてんことをもとめんに。またうへからさるなり。なに
としてかくのことくなる。發問をかへりみるへし。あらぬところを

たつねはやとおもはんにもかなふへからざるものなり。また盡大地はこれ毗盧のひとつのまなこなりとは佛はひとつのまなこといへる。かならずしも人のまなこのやうにあらんすとはおもはされ。人にも目こそはふたつもある。まなこをいふときは人眼とはかりいひてふたつともみつともいひぬなり。教をまなふもの佛眼といひ。法眼といひ。天眼などといふも目にてありとはならぬなり。目のやうにあらんとしれるをははかなきといふ。いまはたた佛の眼ひとつにて盡大地ありけるときくへし。千眼もあれ。萬眼もあれ。まつしはらく盡大地かそのなかのひとつにてあるとなり。かくおほかるなかにひとつそといふもとかなし。また佛にはたたまなこはひとつのみありとしるもあやまらず。まなこはさまざまあるへき。そかし。みつあるもあり。千眼あるもあり。八萬四千ありといふこともあれ。まなこのかくのことくとききて耳をおとるかざるへし。また盡大地はみつから法身なりときくへし。みつから

をしらんことをもとむるはいけるもの。のさたまれる心なり。しかあれともまなこのみつからをはみるもの。まれなり。ひとり佛のみこれをしれり。そのほかの外道等はいたつらにあらぬをのみわれとおもふなり。佛のいふみつからはすなはち盡大地にてあるなり。しかあれはみつからとしるもしらぬも。みなともにおのれにあらぬ。盡大地はなし。このときのかのときの人。にゆつるへし。むかし僧ありて古徳にとふ。百千萬境一時にきたらんとときいかかすへき。古徳いはく。莫管佗。いふころはきたらん。ことはさもあらはあれ。ともかくも。うこかすへからすと。なり。これすみやかなる佛法にてあり。境にてはなし。このことは。は。爛誠とは。ころうへからす。諦實にてあり。ところうへし。いかに。管するかとすれば。管せられ。さりけるなり。ふるき佛のいはく。山河大地と諸人とおなしく。うまれ。三世の諸佛と諸人とおなしく。おこなひきたれり。しかあれはすなはち一人うまるるをりに。山河大地をみるに。この一人から

たつねはやとおもはんにもかなふへからざるものなり。また盡大地はこれ毗盧のひとつのまなこなりとは佛はひとつのまなこといへる。かならずしも人のまなこのやうにあらんするとはおもはされ。人にも目こそはふたつもある。まなこをいふときは人眼とはかりいひてふたつともみつともいひぬなり。教をまなふもの佛眼といひ法眼といひ天眼などといふも目にてありとはならぬなり。目のやうにあらんとしれるをははかなきといふ。いまはたた佛の眼ひとつにて盡大地ありけるときくへし。千眼もあれ。萬眼もあれ。まつしはらく盡大地かそのなかのひとつにてあるとなり。かくおほかるなかにひとつそといふもとかなし。また佛にはたたまなこはひとつのみありとしるもあやまらず。まなこはさまざまあるへき。そかし。みつあるもあり。千眼あるもあり。八萬四千ありといふこともあれ。まなこのかくのことくなりとききて耳をおとるかさるへし。また盡大地はみつから法身なりときくへし。みつから

をしらんことをもとむるはいけるもの。さたまれる心なり。しかあれともまなこのみつからをはみるもの。まれなり。ひとり佛のみこれをしれり。そのほかの外道等はいたつらにあらぬをのみわれとおもふなり。佛のいふみつからはすなはち盡大地にてあるなり。しかあれはみつからとしるもしらぬもみなともにおのれにあらぬ。盡大地はなしこのときのこと。はかのときの人。にゆつるへし。むかし僧ありて古徳にとふ。百千萬境一時にきたらんとときいかかすへき。古徳いはく。莫管佗。いふところはきたらんこと。はさもあらはあれ。ともかくもうこかすへからすと。なり。これすみやかなる佛法にてあり。境にてはなし。このことは。焔誠とはころうへからす。諦實にてあり。ところうへし。いかに管するかとすれば。管せられさりけるなり。ふるき佛のいはく。山河大地と諸人とおなしくうまれ。三世の諸佛と諸人とおなしくおこなひきたれり。しかあれはすなはち一人うまるるをりに。山河大地をみるに。この一人かう

まれさりつるさきよりありける山河大地のうへにいまひとへか
 さねてうまれいつるとみえずしかあれはとてもまたふるまこと
 はのむなしかるへきにはあらずいかにかこころうへきこころえ
 られすとてさしおくへきにはあられはかならずこころうへしと
 おもふへしすてにとけることはにてあれはきくへしききてはま
 たこころうへきなりこれをこころえんやうはこのうまるる一人
 かかたよりこの生をたつぬるにこの生といふことはいかにある
 こととはしめをはりあきらめける人はたれそをはりもしめも
 しらされともうまれきたれりそれたた山河大地のきはもしらさ
 れともこをばみるこのところをはふみありくかことし生のこ
 とくにあらぬ山河大地よとらむるおもひなかれ山河大地をひ
 としきわか生なりといへりけりとあきらむへしまた三世諸佛は
 すてにおこなひて道をもなりさとりをはれりこの佛と我とひ
 としとはまたいかにかこころうへきまつしはらく佛の行をこ

ろうへし佛の行は盡大地とおなしくおこなひ盡衆生ともにおこ
 なふもし盡一切にあらぬはいまた佛の行にてはなししかあれは
 こころをおこすよりさとりをうるにいたるまでかならず盡大地
 と盡衆生とさとりもおこなひもするなりこれにいかにかうたか
 ふおもひもあるへきにしらぬおもひもまするににたるをあき
 らめんとてかくのことくこのゑのきこゆるも人のやうとはあや
 しまさるへしこれはこころうるをしへにては三世の諸佛のこ
 ろをもおこしおこなふはかならずわれらか身心をはもらさぬこ
 とはりのあるなりとしるへしこれをうたかひおもふはすてに三
 世の諸佛をそしるなりしつかにかへりみればわれらか身心はま
 ことに三世の諸佛とおなしくおこなひける道理あり發心しける
 道理もありぬへくみゆるなりこの身心のさきのちをかへりみて
 らせはたつぬへき人のわれにあらず人にあらずならんにはなにの
 ととこほるところとしてか三世にはへたたれりとおもはんこの

論一
作本
る

おもひとも。しかしなからわれにあらず。なにとてかはまた三世諸佛の本心の所行道のときをはさへんとはすへき。しはらく道は知不知にはあらぬとはなつくへし。ふるき人のいはく。撲落も佗物にあらず。縦横これ論にあらず。山河および大地すなはち全露法王身なり。いまの人もむかしの人のいへるかことくならふへし。すてに法王の身にてあり。しかれば撲落もことなるものにはあらさりけるところ。うる法王ありける。このころは山の地にあるかことし。地の山をのせてあるにたり。このころうるにころえさりつるをりのきたりて。このころうるをさまたけす。またこのころうるがころえさりつるをやふることもなくして。しかもこのころうるところえぬとのはるのころあきのことあり。それをもこのころえさりつるは。聲おほきにしてときける。そのこと系耳にいらす。耳こと系のなかにあそひありきける。このころうるは。こと系すてに耳にいりて三昧あらはるるをりにてあるへし。このころうるはちひさく。この

下
に本
無法

本光
九漸
く九
猶ほ
は九
淵の
か九
とさ

えぬはおほきにてありけるともおもはさるへし。わたくしにおもひえたることにはあらねは。法王のかくのことくなりけるとしるへし。法王の身とは。まなこも身のことくにあるも身とひとしかるへし。このころとみと。一毫のへたてなく全露にてあるへし。光明にも説法にもかみにいふかことくに法王身にてありと。このころるなり。むかしよりいへることあり。いはゆるうをにあらされは。うをのころをしらす。とりにはあらされは。鳥のあとをたつねかたし。このことわりをもよくしれる人まれなり。人の魚のころをしらぬと。人のとりのころをしらぬとのみおもへるは。あしくしれり。これをしるやうは。魚と魚とはかならずあひたかひにそのころをしるなり。人のやうにしらぬことはなくて。龍門をさかのほらんとおもふにもともにしられ。おなしくこのころをひとつにするなり。九漸をしのくこのころもかよひしらるなり。これをうをにあらぬは。しることなし。また鳥の空をとひぬるをはいかにもゆくけたも

のはこのあしのあとをしり。このあとをみてたつぬることは夢にもいまたおもひこらすさありとしらねはおもひよるためしもある。しかあるを鳥はよくちひさき鳥のいく百千むらかれすきにける。これはおほきなる鳥のいくつらみなみにさりきたにとひにける。あとよとかすかすにみるなり。車のあとのみちにのこり馬のあとのくさにみゆるよりもかくれなし。鳥は鳥のあとをみるなり。このことわりは佛にもあり。佛のいくよよにおこなひすきにけるよとおもはれちひさき佛おほきなる佛かすにもれぬるかすなからしるなり。佛にあらざるをりはいかにもしらすることなり。いかにしらするといふ人もありぬへし。佛のまなこにてそのあとをみるへきかゆゑに佛にあらぬは佛のまなこをそなへず。佛のものかそふるかすなり。しらねはすへて佛のみちのあとをはたとりぬへし。このあともしめにみえは佛にてあるやらんとあしのあとをもたくらふへし。たくらふるところに佛のあともしられ。佛のあとの

長短も淺深もしられ。わかあとのあきらめらるることとは佛のあとをはかるよりうるなり。このあとをうるを佛法とはいふなるへし。

正法眼藏唯佛與佛

弘安十一年季春晦日於越州吉田縣志比庄吉祥山永平寺知賓寮南軒書寫之

のはこのあしのあとをしり。このあとをみてたつぬることは夢にもいまたおもひこらすさありとしらねはおもひよるためしもある。しかあるを鳥はよくちひさき鳥のいく百千むらかれすきにける。これはおほきなる鳥のいくつらみなみにさりきたにとひにける。あとよとかすかすにみるなり。車のあとのみちにのこり。馬のあとのくさにみゆるよりもかくれなし。鳥は鳥のあとをみるなり。このことわりは佛にもあり。佛のいくよよにおこなひすきにけるよとおもはれ。ちひさき佛おほきなる佛かすにもれぬるかすなからしるなり。佛にあらざるをりはいかにもしらざることなり。いかにしらするそといふ人もありぬへし。佛のまなこにてそのあとをみるへきかゆ系に佛にあらぬは佛のまなこをそなへず。佛のものかそふるかすなり。しらねはすへて佛のみちのあとをはたとりぬへし。このあともしめにみえは佛にてあるやらんとあしのあとをもたくらふへし。たくらふるところに佛のあともしられ。佛のあとの

長短も淺深もしられ。わかあとのあきらめらるることは佛のあとをはかるよりうるなり。このあとをうるを佛法とはいふなるへし。

正法眼藏唯佛與佛

弘安十一年季春晦日於越州吉田縣志比庄吉祥山永平寺知賓寮南軒書寫之

正法眼藏八大人覺

諸佛是大人也。大人之所覺知。所以稱八大人覺也。覺知此法。為涅槃因。我。

本師釋迦牟尼佛。入涅槃夜。最後之所說也。

一者少欲。於彼未得五欲法中。不廣追求。名為少欲。

佛言。汝等比丘。當知多欲之人。多求利故。苦惱亦多。少欲之人。無求無欲。則無此患。直尔少欲。尚應修習。何況少欲能生諸功德。少欲之人。則無詔曲。以求人意。亦復不為諸根所牽。行少欲者。心則坦然。無所憂畏。觸事有餘。常無不足。有少欲者。則有涅槃。是名少欲。

二者知足。已得法中。受取以限。稱曰知足。

佛言。汝等比丘。若欲脫諸苦惱。當觀知足。知足之法。即是富樂安穩之處。知足之人。雖臥地上。猶為安樂。不知足者。雖處天堂。亦不稱意。不知足者。雖富而貧。知足之人。雖貧而富。不知足者。常為五欲所牽。為知足者之所憐愍。是名知足。

三者樂寂靜。離諸憒鬧。獨處空閒。名樂寂靜。

佛言。汝等比丘。欲求寂靜。無為安樂。當離憒鬧。獨處閒居。靜處之人。帝釋諸天。所共敬重。是故當捨已眾。佗眾。空閒獨處。思滅苦本。若樂眾者。則受眾惱。譬如大樹。眾鳥集之。則有枯折之患。世間縛著。沒於眾苦。譬如老象。溺泥。不能自出。是名遠離。

四者勤精進。於諸善法。勤修無間。故云。精進。而不難。進而不退。

佛言。汝等比丘。若勤精進。則事無難者。是故汝等。當勤精進。譬如少水流。則能穿石。若行者之心。數數懈廢。譬如鑽火。未熱而息。雖欲得火。火難可得。是名精進。

五者不忘念。亦名守正念。守法不失。名為正念。亦名不忘念。

佛言。汝等比丘。求善知識。求善護助。無如不忘念。若有不忘念者。諸煩惱賊。則不能入。是故汝等。常當攝念在心。若失念者。則失諸功德。若念力堅強。雖入五欲賊中。不為所害。譬如著鎧入陣。則無所畏。是名不忘念。六者修禪定。住法不亂。名曰禪定。

佛言。汝等比丘。若攝心者。心則在定。心在定故。能知世間生滅法相。是故汝等。常當精進。修習諸定。若得定者。心則不散。譬如惜水之家。善治堤塘。行者亦尔。爲智慧水故。善修禪定。令不漏失。是名爲定。

七者修智慧。起聞思修。證爲智慧。

佛言。汝等比丘。若有智慧。則無貪著。常自省察。不令有失。是則於我法中。能得解脫。若不尔者。既非道人。又非白衣。無所名也。實智慧者。則是度老病死海。堅牢船也。亦是無明黑暗大明燈也。一切病者之良藥也。伐煩惱樹之利斧也。是故汝等。當以聞思修慧。而自增益。若人有智慧之照。雖是肉眼。而是明見人也。是名智慧。

八者不戲論。證離分別。名不戲論。究諸實相。乃不戲論。

佛言。汝等比丘。若種種戲論。其心則亂。雖復出家。猶未得脫。是故比丘。當急捨離亂心戲論。若汝欲得寂滅樂者。唯當善滅戲論之患。是名不戲論。これ八大人覺なり。一一各具八。すなはち六十四あるへし。ひろくするときは無量なるへし。畧すれば六十四なり。大師釋尊最後之説。

爲大乘之所教誨。二月十五日夜半の極唱。これよりのち。さらに説法しましませす。つひに般涅槃しましませす。

佛言。汝等比丘。常當一心勤求。出道一切世間動不動法。皆是敗壞不安之相。汝等。且止。勿得復語。時將欲過。我欲滅度。是我最後之所教誨。このゆゑに如來の弟子は。かならずこれを習學したてまつる。これを修習せし。さらんは。佛弟子にあらず。これ如來の正法眼藏涅槃妙心なり。しかあるに。いましらするものは。おほく見聞せることあるもの。はすくなきは。魔嬖によりて。しらするなり。また宿殖善根のすくなき。きかす。みす。むかし正法像法。のあひたは。佛弟子みなこれをしれり。修習し。參學し。き。いまは。千比丘のなかに。一兩箇の八大人覺しれるものなし。あはれむへし。澆季の陵夷。たとふるにも。なし。如來の正法。いま大千に流布して。白法。いま滅せざらんとき。いそき習學すへきなり。緩怠なることなかれ。佛法にあひたてまつること。無量劫にもかたし。人身をうることも。またかたし。たとひ人身を

うくといへとも。三洲の人身よし。そのなかに南洲の人身すくれたり。見佛聞法。出家得道するゆゑなり。如來の般涅槃よりさきにさきたちて死せるともからは。この八大人覺をきかず。ならはす。いまわれら見聞したてまつり。習學したてまつる。宿殖善根のちからなり。いま習學して生生に増長し。かならず無上菩提にいたり。衆生のためにこれをとかんこと。釋迦牟尼佛にひとしくして。ことなることなからん。

正法眼藏八大人覺

建長五年正月六日書于永平寺

如今建長七年乙卯解制之前日。令義演書記書寫畢。同一校之。右本先師最後御病中之御草也。仰以前所撰假字正法眼藏等皆書改。竝新草具。都盧一百卷可撰之云云。既始草之御此卷。當第十二也。此後御病漸漸重増。仍御草案等事即止也。所以此御草等先師最後之教救也。我等不幸而不拜見一百卷之御草。尤所恨也。若

奉戀慕

先師之人。必書此卷。而可護持之。此

釋尊最後之教救。且

先師最後之遺教也

懷英記之

承陽大師聖教全集第貳卷終

うくといへとも。三洲の人身よし。そのなかに南洲の人身すくれたり。見佛聞法。出家得道するゆゑなり。如來の般涅槃よりさきにさきたちて死せるともからは。この八大人覺をきかす。ならはす。いまわれら見聞したてまつり。習學したてまつる。宿殖善根のちからなり。いま習學して生生に増長し。かならず無上菩提にいたり。衆生のためにこれをとかんこと。釋迦牟尼佛にひとしくして。ことなることなからん。

正法眼藏八大人覺

建長五年正月六日書于永平寺

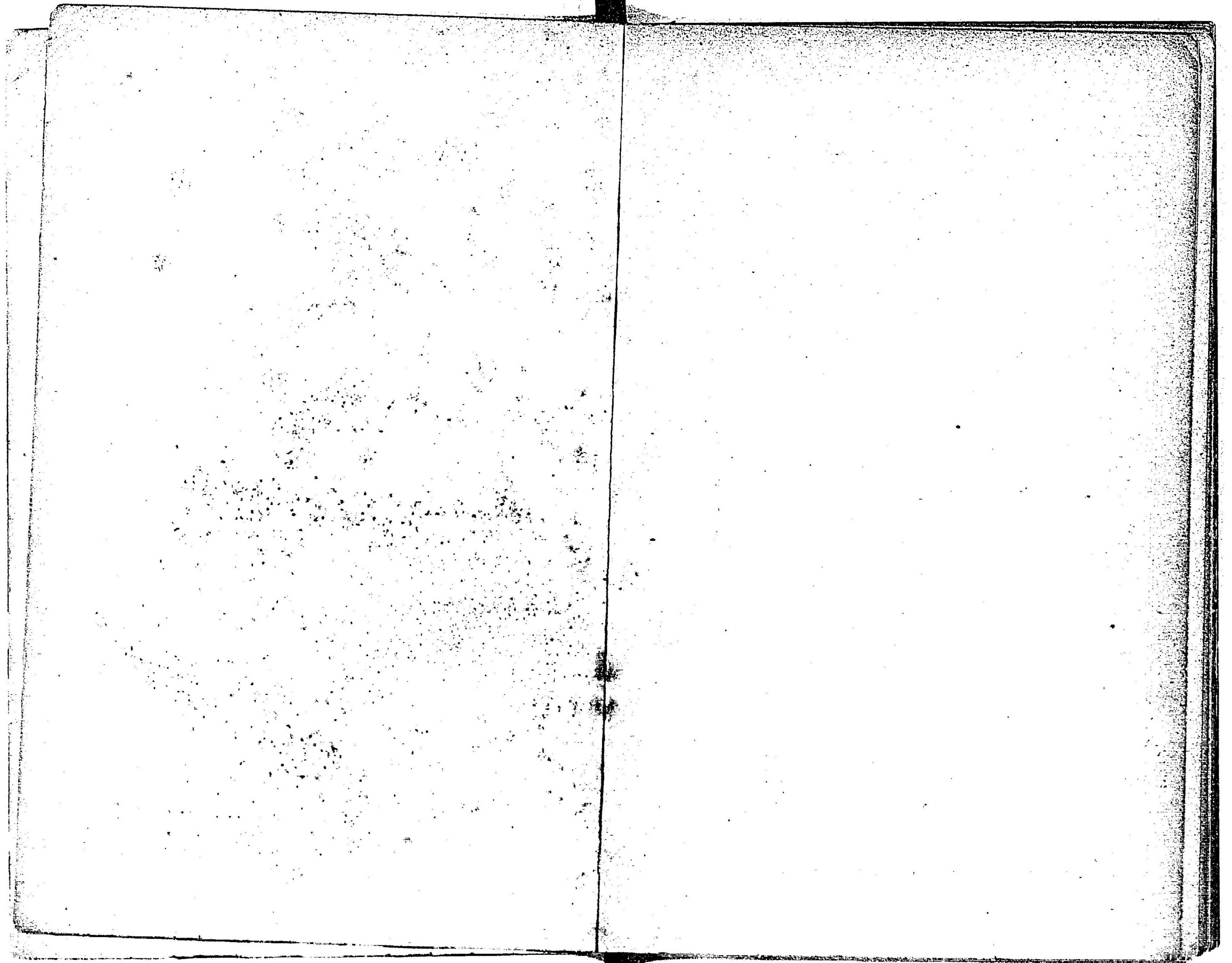
如今建長七年乙卯解制之前日。令義演書記書寫畢。同一校之。右本先師最後御病中之御草也。仰以前所撰假字正法眼藏等皆書改。竝新草具。都盧一百卷可撰之云云。既始草之御此卷。當第十二也。此後御病漸漸重増。仍御草案等事即止也。所以此御草等先師最後之教教也。我等不幸而不拜見一百卷之御草。尤所恨也。若

奉戀慕

先師之人。必書此卷。而可護持之。此釋尊最後之教教。且先師最後之遺教也。

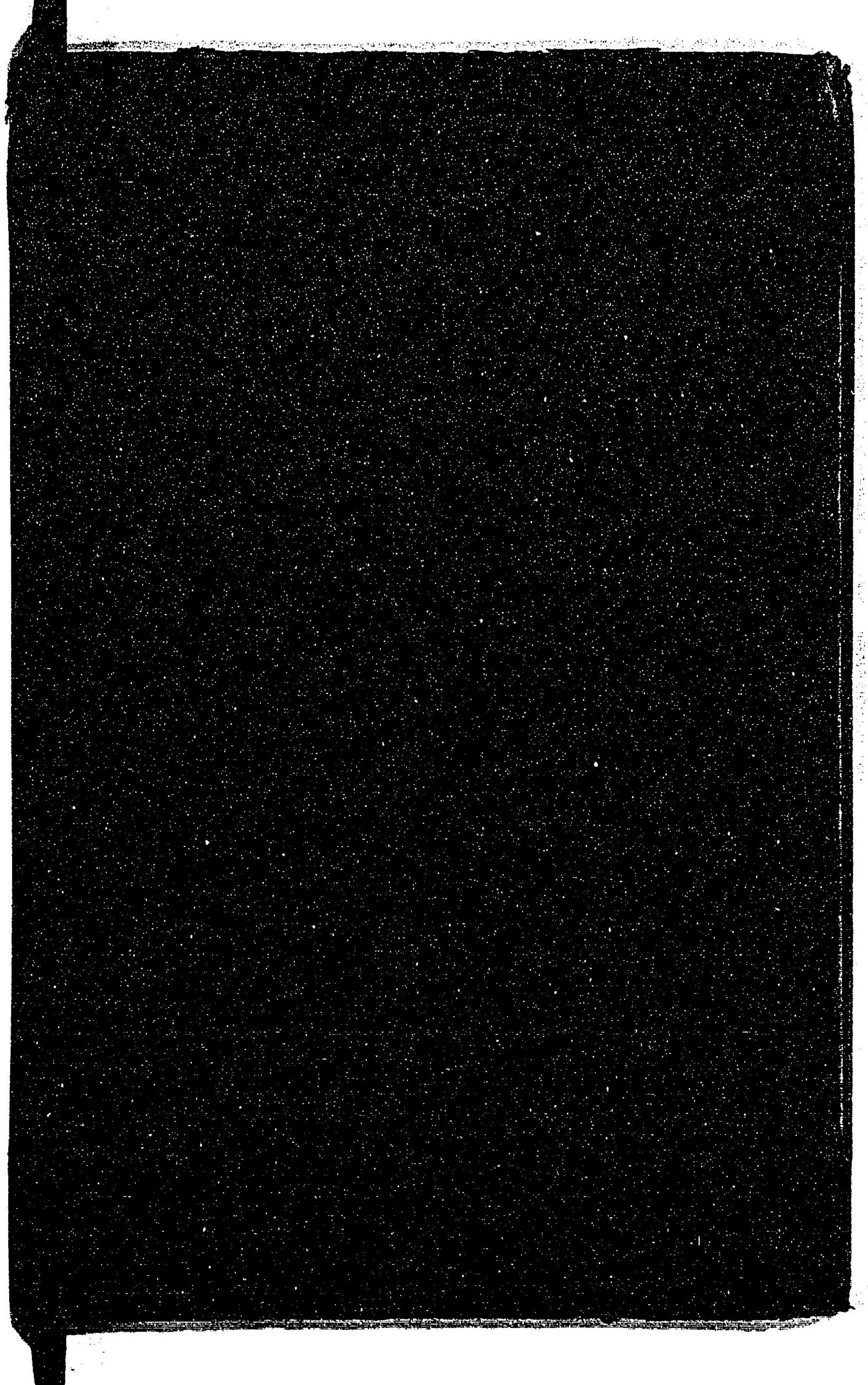
懷英記之

承陽大師聖教全集第貳卷終





324
128



128

(M)

